

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本條ニ同意者ハ起立セヨ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル可シ

書記官 森山茂 朗讀

第十條 贓物 盜賊ノ品觸アルトキハ其到達シタル年月日時ヲ簿冊ニ記載シ

買取品ニ注目シ若シ類似ノ物品ヲ見出シタルトキハ速ニ所轄警

察署ニ届出ツヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本條ニ同意者ハ起立セヨ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル可シ

書記官 森山茂 朗讀

第十一條 品觸ノ到達シタル日ヨリ一個年内ニ其物品ヲ買取リ若

クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シ又ハ轉賣シテ届出ヲ爲サス

而シテ其届出テサリシ理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條

ノ刑ニ同シ

○十一番 榎村正直 本官ハ本條類似ノ物品ヲ買取リ又ハ交換シノ下ニ

及ヒ寄藏シノ五字ヲ加フルヲ可トス其理由ハ俗呼テ潰屋ト稱スル

者ノ如キハ惟タ金銀類ヲ鎔解スルノ委託ヲ受ルノミニシテ之ヲ買

取り若クハ交換スル等ノ事ハ幾ト之レ無シ而シテ細工物ノ如キニ

至テハ其製作ノ巧拙ニ因リ大ニ價值ヲ異ニスルハ各位ノ知ル所ナ

リ然ルニ本案ノ如ク物品ヲ買取リ又ハ交換スルニ止ムルトキハ名

ヲ寄藏ニ假リテ巧ニ法網ヲ潜ル者アルニ至ルヤ必セリ因テ此修正

ノ行ハレンコトヲ望ム

○九番 東久世 通禧 賛成

○議長 十一番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外番二番 黒田 綱彦 問題ニ對シテ一言セシ原案特ニ寄藏ノ字ヲ載セサル

モ其意義ハ即チ「之ヲ得タルマ、所持シ」ト言ヘル中ニ包含セリト爲ス若シ問題ノ如キ字句ヲ插入スルトキハ唯其一年内ニ寄藏スル者アリシ場合ノミニ届出ヲ爲スニ止マリ其區域頗ル狹隘ナル可シ蓋シ交換等ハ一年ニ限ルモ可ナリ寄藏ニ至テハ五年乃至十年前ニ係ルモ其物品ノ存スル上ハ之ヲ届出ル者トシテ可ナラン原案ニ「其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シ」トアルハ即チ之カ爲メノニ冀クハ原案ノ如クナランコトヲ

出席

四十番

渡邊 洪基

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ十一番ノ修正ニ同意者ハ起立

セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ十一番ノ修正説ハ消滅ス

○四十三番 田邊 太一 本案冒頭ヨリ品觸到達云云ト有ルハ唐突ニ屬ス因

テ古物商ノ三字ヲ冠ラシメントス

○議長 四十三番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス他ニ發議ナクシハ本條ノ決ヲ取シ本第十一條ニ同意者ハ起立セヨ

起立者十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル可シ

○書記官 森山 茂 朗讀

第十二條 古物^品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及品觸寫書ハ後證ノ爲使用後十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直チニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本條ニ同意者ハ起立セヨ

○^四十 全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル可シ

書記官 森山 茂 朗讀

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ商品及簿冊ノ検査ヲ爲シ^{時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ}又ハ時々古物商ヨリ簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ古物商ハ其検査ヲ拒ムコトヲ得ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本條ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル可シ

書記官 森山 茂 朗讀

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本條ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル可シ

書記官 森山 茂 朗讀

第十五條 第五 第六條第十條第十四條及刑法第三百九十九條第四百

一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄東京府ハ警察署ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本條ニ同意者ハ起立セヨ
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル可シ
書記官 森山 朗讀

第十條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尋常取締ノ外尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

一 凡物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及物品ノ形狀徽章番號柄模様價額年月日時ヲ簿册

ニ記載スヘシ

二 日出前日歿後ハ物品ヲ買取り又ハ交換シ及寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四 凡物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價額年月日時ヲ簿册ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿册ヲ所轄警察署ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ

六 住居所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

○四十番 渡邊 洪基

本官ハ本條ニ修正ヲ加ヘントス即チ第二項ノ「シ及寄藏」ノ朱字ヲ削除スル是レナリ抑モ日出前日歿後ニ物品ヲ買取リ又ハ交換スルヲ禁スル如キ之ヲ情實ヨリ論スルトキハ頗ル苛嚴ナルモ本條ハ特別取締ニ付セラルル者ナルヲ以テ勢ヒ亦已ヲ得サルナリ然ルニ原來寄藏トハ甚タ解シ難キ文字ナリ但シ之ヲ平易ニ言ハハ即チ預カルノ意義ニ應當ス可キモ其文字ノ當否ハ姑ク措キ凡ソ是等ノコトハ條理上ニ於テ羈縻ス可キ者ニ非ス既ニ可決セシ第六條ニ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシト言ヘルハ當ニ然ルベキモ其他第四條第五條等皆之ヲ不問ニ措ケリ且第十一條ニ於テ即チ同一ノ動議アリシモ既ニ消滅セリ畢竟寄藏即チ物ヲ預カルノ事項ハ原ト古物商ト幾ト縁故ナキ者ト謂フモ可ナラン是レ此

修正說アル所以ナリ

○三十六番 神田 孝平 賛成

○議長 四十番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十五番 柴原 和 第二項ノ朱字ヲ削ルノ修正說問題ト爲レリ本官等ノ

此文字ヲ加ヘシ理由ハ第二讀會ノ初メニ方リ或ハ辨明ヲ闕キシナラント思量スルヲ以テ今之ヲ辨シテ以テ參考ニ供セントス動議者ハ寄藏ノ文字解シ難シト詰難スルモ刑法第三百九十九條第四百一條ニ「寄藏故買」ト載セ本案第六條ニモ之ヲ掲ク然ルニ獨リ本項ノミニ在テ解シ難シト謂フハ殆ト解シ難キ說ナリ其日出前日歿後云云ハ頗ル酷法ナルモ特別取締ノ要旨ナルヲ以テ動議者モ亦已ムヲ得スト明言セリ果シテ然ラハ本條ニ背キ物品ヲ買取リ若クハ交換

スルモ名ヲ寄藏ニ假ルトキハ其區域判然セサルヲ以テ遂ニ罪ノ間
フ可キ無シ即チ此寄藏ノ文字ハ主務官ニ在テモ緊要トシ本官等モ
亦其然ルヲ信シテ加ヘタルナリ彼ノ第十一條ニ同一ノ動議ノ否決
センハ即チ以前ニ之ヲ得タルマ、所持シト言ヘル字句中ニ其意
義ヲ包含セルカ爲メナリ固ヨリ本項ノ場合ト同日ニ論ス可キ者ニ
非ス

出席

三十五番

本田 親雄

○四十番

渡邊 洪基

寄藏ノ文字ノ出所ニ就テ辨明ヲ得タレトモ刑法第三
百九十九條ノ文義ハ即チ強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ寄藏故買シ
第四百一條ハ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ
寄藏故買スルニ係リ共ニ尋常ノ古物商ニハ關係ヲ有セサル者ナリ

○又此第二項ノ物品ハ素ヨリ贓物ヲ指スニ非ス然レトモ已ニ特別取

締ニ屬スル者ナルヲ以テ假令純然タル物品ナルモ日出後日歿後ハ
之ヲ買取り又ハ交換スルヲ許ササルハ已ムヲ得サルモ其寄藏即チ
預カルコトヲモ許ササルハ解シ難キニ非スヤ見ニ第四條ハ身元詳
ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ許ササルモ其物
品ヲ預カルコトハ之ヲ不問ニ措ケリ第五條ニ於ルモ亦然リ蓋シ贓
物ナルヲ知テ之ヲ預カルトキハ則チ刑法第三百九十九條等ニ準擬
セラルルモ苟クモ事主確實ナル物品ヲ預カルニ於テ何ノ妨ケカ之
レ有ラン且ヤ買取り又ハ交換等ハ作用ナルヲ以テ時ヲ限リテ之ヲ
提轄スルヲ當然トナスモ其作用ニ非サル寄藏ニ就テ時ヲ限ルハ最
モ解シ難シ加之寄藏トハ彼ヨリ預カルヲ言フカ此ヨリ預クル耶殆

ト語ヲ爲ササル者ナリ本官ハ主務官ノ意見ヲ知ラサルモ原案ニ此文字ヲ掲ケサルハ蓋シ偶爾ニ非サル可シ敢テ熟考アラシコトヲ請フ

○八番 伊丹重賢

問題ニ對シテ一言セン動議者云ク第六條ニハ既ニ寄藏ノ字アリト該條ハ刑法第三百九十九條等ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ寄藏スルヲ取締ルヲ目的ト爲セリ然リ而シテ此第二項ハ特別取締ニ付シタル者ニ係ル取締法ナルヲ以テ若シ此ニ此文字ナクシハ則チ買取リ又ハ交換セシニ非ス惟タ寄藏セルノミト云フノ道辭ヲ藉シ適マ本項ヲ設ケタル旨趣モ遂ニ畫餅ニ屬セン苟モ特別取締ニ付シタル上ハ是等ノ提轄法アルハ理勢已ム可ラサル者ナリ

○十五番 柴原和

四十番ハ寄藏ノ文字ニ對シ遂ニ語ヲ爲サスト駁スル

モ前陳ノ如ク刑法第三百九十九條第四百一條ニモ此文字アリテ本項ニ填用スルモ全ク同一義ナリ又論者ハ寄藏ノコト古物商ニ關係ヲ有セスト云フモ既ニ特別取締ニ付シタル者ノ如キハ最モ大關係アリトス彼ノ第四條第五條ニ寄藏ノコトヲ載セサルハ是レ尋常取締ノ法則ナルヲ以テナリ又身元詳カナラサル者ヨリ物品ヲ預カルコト無シト説クモ本項ハ其詳否ニ拘ハラズ之ヲ提轄セサル可ラス若シ然ラサレハ縱令ヒ其實本項ニ違フテ物品ヲ買取ルモ是レ寄藏ナリト言ハハ其然ルヤ否ヤヲ剖判スル能ハス是ノ如キハ特別取締モ亦徒法タランノミ

○四十番 渡邊洪基

刑法第三百九十九條第四百一條共ニ「寄藏故買」ト有リテ單ニ寄藏トノミ掲ケス即チ預カリテ故買セルヲ言フカ如シ若

シ夫レ贓物ト知りタル上ハ他ノ故ナクンハ漫ニ之ヲ預カル者ハ有ル可ラス縦令之レ有リト爲スモ尋常ノ古物商スラ尙ホ第十三條ノ如キ提轄法ヲ付セリ然ハ則チ特別取締ニ付セラレタル古物商ニ物品ヲ寄託スル者ハ萬之レ有ル可ラス且刑法第三百九十九條等ハ寄藏ノ事ヲ言フモ時ヲ限ラサルカ故ニ不可ナキモ本項ハ然ラス到底是レ他條ト權衡ヲ失スルニ由リ問題ニ可決センコトヲ望ム

○二番 細川潤次郎

本問題ノ決議ニ先チ本官ノ思想ヲ定ムル爲メ内閣委員ニ一回ノ答辨ヲ煩ハサン即チ寄藏ノ解釋是レナリ四十番ハ曰ク寄藏トハ語ヲ爲サスト原來此文字ハ何如ナル意義ヲ包有スル乎刑法ニモ既ニ此字アリ但シ寄ハ寄セ藏ハ藏ムルト訓スル文字ナルヲ以テ本官ハ當初之ヲ物品ノ儲藏ヲ委託スルノ意ト解シ所謂預ケル

ト言フニ同シト思量セシナリ然ルニ他ノ議官ノ說ヲ聽クニ或ハ斯ク解セサル者アルカ如シ即チ第六條ノ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スル云云ノ行文ニ就テ考フルトキハ則チ寄藏ハ預ケルニ非スシテ之ヲ預カルノ意ニ外ナカル可シ果シテ然ラハ本官當初ノ見解ハ即チ誤レルニ似タリ是ヲ以テ之ヲ觀レハ第二項モ亦強テ解シ難キニ非ス抑モ寄藏トハ彼ノ受寄ト言ヘルト同一ナルヤ將タ同字ニシテ自他ノ別アリトスルヤ其内閣ニ於テ下ス所ノ見解ヲ説明アラシコトヲ請フ

○番 水本一成美

本案第二項ニ載セタル寄藏ノ文字ニ就テ説明ヲ爲スハ正當ノ順叙ニ非サルモ既ニ第六條ニ同文字アルヲ以テ其質議ニ答ヘン抑モ寄藏トハ二番ノ說ノ如ク即チ預カルト云フノ意ナリ而

シテ此文字ハ始メテ刑法ニ出タルニ非ス是レ明清律ヨリ由來シ既ニ新律綱領ニモ之ヲ用ヒタリ但明清律ニハ贓物寄藏即チ不正品ヲ預カリタルカ爲メ罰スルノ場合ニ限り之ヲ用フ我カ新律綱領等皆之ニ據ル茲ニ起立ノ次テニ一言センニ四十番ハ刑法第三百九十九條等ノ寄藏故買ト有ルヲ一事ト看做シ寄藏シテ故買スル者ト解セルカ如キモ從來各府縣ノ稟議ニ對スル法制部ノ説明並ニ現ニ司法省ノ執行スル所ニ據レハ寄藏故買トハ全ク別種ニシテ寄藏スルモ故買スルモ等シク犯罪トセリ是レ或ハ贅言ニ似タルモ聊カ參考ノ爲メ之ヲ辨ス

○七番 鍋島直彬

本官モ修正委員ノ一人ナルヲ以テ四十番ノ動議ニ對シ聊カ辨セントス動議者ハ特別取締ニ付シタル者ニ物品ヲ寄藏スル

者ハ有ル可ラスト斷言スルモ既ニ特別取締ニ付セララルル如キノ徒ハ最モケイヅ買ニ緣故アル者ナリ故ニ名ヲ寄藏ニ藉ラントスルノ途ヲ塞クハ即チ提轄ノ要點ナラン是ヲ以テ本官ハ全ク四十番ニ反對シ苟クモ特別取締ニ付スル上ハ特ニ此文字ヲ存セサル可ラスト信ス

○三十六番 神田孝平

本官ハ動議ヲ賛成スル者ナリ修正委員ハ何ニ由テ本案中第二項ノミ此字ヲ加ヘサル可ラスト爲ス乎既ニ特別取締ニ屬スルヲ以テ第一項ニハ身元詳カナル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルモ尙ホ且賣主讓主ノ住所氏名等ヲ簿冊ニ記載セシム若シ夫第二項ニ寄藏ノ字ヲ要スト爲サハ第一第三第四項モ亦必要ナラサル可ラスト然ルニ獨リ第二項ノミ之ヲ加フルハ其何ノ意タルヲ解ス

ル能ハス宜ク問題ノ如ク削除スヘシ

○番外番水本 成美 本官ハ前ニ二番ノ質疑ニ對シテ寄藏ノ文字ノ解釋ヲ

説キ且四十番ノ寄藏故買ノ見解ニ就テモ聊カ辨述セリ抑モ本官等

ハ原案主持ノ職任アルノミナラス第二項ニ於テ此字ヲ加フルハ敢

テ必要ヲ見ス然ルニ前ノ起立ノ時ニ方リ其言本案ノ可否ニ涉ラサ

○リシカ故ニ或ハ各位ニ於テ本官等竊ニ之ニ左袒セル者ノ如キ感覺

ヲ惹起セシモ知ル可ラス因テ此ニ一言シテ原案ニ復センコトヲ望

ム

○十五番柴原 和 三十六番ノ反駁説ハ稍一理アリ本官等向キニ主務官

ヲ本院ニ招請シ其意見ヲモ問ヒ當初ハ既ニ各項ニ之ヲ加ヘシモ審

議ノ末遂ニ第二項ノミニ存スルニ決セリ但シ同項ニ寄藏ヲ禁セサ

レハ名ヲ之ニ藉テ法網ヲ免カレ又ハ朝ニ寄藏シテ夕ニ之ヲ他ニ移

ス如キ事ナキニ非ス然リ而モ第一項第三項第四項ノ如キハ各他日

ノ取締ニ供スル爲メナルヲ以テ特ニ寄藏品ヲ簿冊ニ記載セサルモ

肯テ缺ル所ナシ是レ第二項ニ之ヲ特書シ其他ニ及ハサル所以ナリ

又本案第六條寄藏ノ字義如何ニ就テハ本官等嘗テ之ヲ論究セリ然

ルモ刑法第三百九十九條ニ預カルノ意義ヲ以テ使用セル適例アル

ヲ以テ即チ之ニ擬ヘリ本案ノ寄藏トハ預カルノ意ニシテ預ケルノ

意ニ非ス起立ノ次テ之ヲ辨スルコト爾リ

○四十番渡邊 洪基 番外一番ハ本官ノ寄藏故買ノ見解ノ誤リ有ルヲ辨セ

リ其解釋ノ如キ本官モ惑ヒ無キニ非サルカ故ニ判然之ヲ陳ヘサリ

シ要スルニ本官ノ旨趣タル第二項ニ加ヘシ寄藏トハ預カリ蓄フノ

意ナレハ時日ヲ以テ限ル可ラスト云フニ在リ之カ削除ヲ要スルノ

理由ハ過刻來屢次詳論セシヲ以テ各位ニ於テ本項ト各條トノ權衡

ヲ考量シ以テ其取捨ヲ決センコトヲ望ム

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ン四十番ノ修正ニ同意者ハ起立

セヨ

起立者六人

○議長 少數ナルヲ以テ四十番ノ修正說ハ消滅ス他ニ發議ナクンハ

本條ノ決ヲ取ン本第十六條ニ同意者ハ起立セヨ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ル可シ

書記官 森山 朗讀

第十七條^{六七} 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處

ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本條ニ同意者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ル可シ

書記官 森山 朗讀

第十八條^{七八} 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第

十七條^{六七}ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ之ヲ納完スルヲ拘留^置

セラル、コトアルヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本條ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ル可シ

書記官 森山 朗讀

第十九條 九 古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ 其情狀ニ因リ管轄廳 行政ノ處分

東京府ハニ於 ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

○番 一番 水本 成美 只今議題ニ上レル修正ノ字句ニ就テ一言セン嚮キニ

本修正ノ理由ヲ聽クニ原案ノ如ク「行政ノ處分ヲ以テト有ルモ此處分ヲ爲ス者ノ何人ナルヲ知ル能ハス其單簡ノ規則等ノ外堂堂タル法律文中ニ此ノ如キ文字アルヲ見スト云ヘリ當時本官ハ法律文中果シテ此字句アリヤ否ヲ記憶セサリシヲ以テ沈黙ニ付セシモ退テ刑法ヲ閱スルニ其第二十一條ニ無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ云云ト掲ク蓋シ此處分ヲ爲スハ將タ

何人ナルヤ分明ナラサルカ如キモ是レ内務司法兩卿ノ處分ノ外ニ

出テス仍ホ其第三十六條第四十一條第五十五條等比比之レ有リ然

ラハ則チ原案ノ如キモ強テ修正セスシテ可ナラン修正委員ハ恐ク

ハ其說ヲ採テ動カサル可キモ肯テ他議官ノ參考アラシコトヲ望ム

○四十番 渡邊 洪基 番外一番ノ論辨ノ如ク本官ハ原案ニテ可ナリトス蓋

シ本案中他ニ「管轄廳云云」ト修正ヲ加ヘタル有ルモ一ハ營業免許

ノ認可ニ係リ一ハ或ル人種ニ限り時トシテ若干時間ノ檢束法ヲ施

スニ在リ此第十九條ニ至テハ營業ヲ禁止シ若クハ停止スル者ニシ

テ實ニ重大事件ト謂ハサルヲ得ス彼ノ醫業及ヒ新聞紙ヲ禁止シ若

クハ停止スル等ハ皆内務卿ノ特權ニ係ル然ラハ則チ本條ノ事件モ

亦宜ク同卿ニ特任スヘシ蓋シ之ヲ特任スルモ同卿ニ於テ時宜ニヨ

リ或ハ管轄廳ヲシテ代辨セシムル等ハ即チ可ナリ苟モ法律ヲ以テ
是大權ヲ管轄廳ニ委付スルハ即チ人民ノ權理ヲ輕視スルノ嫌ヒ有
リ且行政ノ處分ノ文字ノ刑法中各條ニ散見スルハ只今番外一番ノ
詳述スルカ如シ因テ本條ヲ全ク原案ニ復スルヲ可トス

○十九番 上杉茂憲 賛成ス行政ノ處分トハ或ハ茫漠タルニ似タルモ既ニ

刑法ニ比比之ヲ載スル有レハ獨リ本案ノミ解シ難シトハ謂フ可ラ
ス加之動議者ノ云ヘル如ク若シ朱書ノ如ク修正セハ則チ人民ノ權
理ヲ輕視スルノ嫌ヒ有リ本條ハ宜ク原案ニ復スヘシ

○三十五番 本田親雄 賛成

○議長 四十番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外番 一番 水本成美 四十番ノ修正說問題ト爲リタルヲ以テ各位ノ參考ニ

供センカ爲メ一言セン今單ニ刑法ノミヲ見ハ行政ノ處分ハ其何人
カ之ヲ爲スヤ分明ナラサルカ如キモ刑法附則第三十六條及ヒ第三
十八條等ニ就テ看ハ其疑團忽チ氷解スルヲ得ヘシ本案ニ於ルモ亦
然リ行政ノ處分ト言ヘハ或ハ漠然タル如キモ即チ結尾ニ「此條例
ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府ヲ除ク縣令ニ於テ便宜取
設ケ内務卿ニ届出ツヘシ」ト言ヘル條則アリテ其細則中ニハ必ス
是等ヲ明示ス可シ然ハ則チ他日之ニ關シテ混雜ヲ生スルカ如キハ
萬之レ有ル可ラス故ニ此點ニ對シテハ毫モ罣慮ヲ要セサル可シ敢
テ之ヲ辨ス

○十五番 柴原和 第十九條修正ノ理由ハ修正委員ヨリ第二讀會ノ初メ
ニ方リ辨明セシモ尙ホ參考ノ爲メ聊カ之ヲ辨セン本官等嚮キニ主

務官ノ説ヲ聽クニ本條營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ掲クルモ漫ニ營業停止等ノ命ヲ下ストキハ其既ニ購入セル商品ノ處分ニ窮スルハ理ノ最モ看易キ者ナルヲ以テ是等ハ容易ニ下命セサルノ意ナリ且一年内ニ此條例ヲ再犯スト言フモ初犯ニシテ其情狀再犯ヨリ重キ者アリ又再犯ト雖モ情狀ノ重カラサル者アルヲ以テ一ハラ概論シ難シト云ヘリ然ハ則チ一年内ニ再犯ト言ヘルヲ改メ單ニ此條例ヲ犯シタルトキ云ト爲サン乎是亦支障アルヲ免レス因テ再犯云云ハ之ヲ存シ惟タ其以下ヲ修正セルノミ蓋シ「行政ノ處分」ト言ヘルハ明瞭ヲ缺キ且法律文中ニ見サル字句ナリトハ第一讀會ニモ既ニ論難アリ且醫師規則及ヒ西洋形船船長運轉手機關手試験免狀規則等ノ營業ノ禁止停止ヲ命スルハ一ニ内務卿若クハ農商務卿

ノ權内ニ屬スルハ四十番ノ説ノ如シ然ルニ獨リ本條例ノミ舉テ之ヲ管轄廳ニ委任スルハ或ハ權衡ヲ得サルカ如キ看アルモ本案ハ一ノ種特別ノ者ナルヲ以テ固ヨリ之ヲ他ノ法律ト同視ス可ラス故ニ原案第二條ニモ「古物商ハ所轄警察署ノ免許ヲ受クヘシ」トシ第十五條ニハ「古物商ハ警察署ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得」ト爲セリ是レ各警察署ニ在テ是等ノ事項ヲ經行スルノ意ナル可キモ此ノ如キハ古物商ヲ輕視スルノ嫌ヒ有ルヲ以テ本官等ハ之ヲ管轄廳ト修正セシニ該條ハ異議ナク議場ノ可決ヲ得タリ既ニ其第十五條ニ於テ三年以下特別取締ニ付スルノ重件スラ管轄廳ハ隨意ニ之ヲ爲スヲ得然レハ則チ本條ノ營業停止等ノ事項ヲ舉テ其權内ニ委付スルニ於テ何ノ權衡ヲ失スト謂ン蓋シ本案管

轄廳云云ノ修正ノ如キモ畢竟內閣委員ノ説明ニ原キ原案ノ旨趣ヲ明晰ニ爲シタルニ過キス又行政ノ處分云云ニ關シ番外一番ハ刑法第二十一條第三十六條ヲ援テ證明セルモ該條ノ如キ然クセサレハ語ヲ爲ササルニ由ル故ニ彼ヲ以テ此ニ例スルハ即チ飯匕規ヲ爲スニ類セン若シ夫レ他ニ同文字ヲ用ヒタル類例アラハ之ヲ聽カントス到底原案ニ復スルノ說ハ其可ナルヲ知ラサルナリ

○四十番 渡邊 洪基 論者ハ第二條第十五條ヲ援テ營業ノ禁止等モ亦管轄廳ニ一任シテ可ナリト說クモ第二條ハ即チ營業ノ免許ニ係ル條規ナリ蓋シ其免許ヲ與フルハ素ヨリ當然ノ事ニシテ尙ホ子ヲ舉レハ之ヲ官衙ニ申報スルカコトク產業ハ人人ノ當サニ營ムヘキ者ナレハ苟モ不正ノ業ニ非サル以上ハ本人ノ希望ニ應シテ之ヲ許ササル

可ラサル者トス然ルニ營業ヲ禁止シ若クハ停止スルニ至テハ人人ノ當然ニ行ヒ得ヘキ權理ヲ行ハシメサルニ在リテ是レ決シテ第二條等ト同視ス可ラサルナリ又本案ノ如ク「其情狀ニ因リ」ト掲クルトキハ例ヘハ其情ハ一ナルモ甲縣ハ禁止シ乙縣ハ停止スル等甲乙緩嚴ノ異同ヲ生ス若シ夫レ原案ノ如クハ內務卿若クハ司法卿ニ具狀シテ後チ之ヲ命スルニ在ルヲ以テ其情ハ一ナルモ緩嚴異同ヲ生スル等ノ支障ナカラシ加之「行政ノ處分」ト爲スモ其間ニ情狀ヲ斟酌スルヤ明カナリ夫ノ刑法ヲ援引スルハ飯匕規ヲ爲スト排斥スルモ本案第十三條以下ハ即チ提轄ニ係ル條則ニシテ素ヨリ刑法ト同一致ナリ之ヲ援引スル何ソ失當トセン故ニ本官ハ現問題ニ可決センコトヲ切望ス

○八番 伊丹重賢

動議者ハ營業ヲ禁止若クハ停止スルハ重大ノ事項ナリト云ヘリ其レ然リ本官等ノ行政處分ヲ其情狀ニ因リト修正セルモ事項ノ重要ナルカ爲メニシテ苟モ營業禁止等ノコト無カラシムラ欲スルニ在リ但シ論者ハ行政ノ處分ト記スルモ其間情狀ヲ斟酌スルノ意ナルヤ明ケシト云フモ條文ニ表彰セサル限リハ其意義明瞭ナラス且此行政ノ處分ヲ爲スハ抑モ何人ナルヤ是亦明瞭ヲ缺ケリ寧ロ主任者ヲ掲クルノ明瞭ナルニ如カス管轄廳ノ文字ニ就テ駁論アルモ是レ惟タ原案ノ旨趣ヲ明晰セシニ過ス素ヨリ本官等ノ造意ニ非サルナリ

○二番 細川潤次郎

本官ハ原案ニ復スルヲ可ナリトス說ノ如ク原案ノ營業ヲ禁止シ停止スルノ執行ハ東京ハ警視廳其他ハ管轄廳ニ委付ス

ルノ旨趣ナルヘキモ彼ノ營業ヲ禁止停止スルハ則チ中央衛生會ノ

審議ヲ經テ内務卿之ヲ命スルノ規則ナリ古物商ノ營業ト雖モ之ヲ

輕視シテ可ナランヤ況ンヤ奈何ナル場合ニ禁止若クハ停止シテ可

ナルヤノ程度ノ分界モ亦至難ナルヲヤ之ニ反シテ原案ノ如ク「行政

ノ處分」ト有レハ内務卿或ハ司法卿ノ處分ニ委スルヲ得ヘク且此文

字ヲ明瞭ニセンカ爲メ彼ノ刑法ハ附則ヲ以テ之ヲ解釋シ本案ハ第

二十三條ニ於テ方法細則ヲ設クルコトヲ示シ其細則中必ス之カ解

釋ヲ下ス有ラン若シ然ラサレハ別ニ單行布告ヲ以テ之ヲ明釋スル

モ亦不可ナカラシ

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ四十番ノ條正ニ同意者ハ起立

セヨ

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ四十番ノ修正説ニ決ス時午ニ中セリ因テ午餐ノ爲メ一旦本會ヲ中止ス可シ散會セヨ

正午閉場

午後零時四十分開場

退席

五番

鷺尾 隆聚

同

二十五番

鍋島 幹

同

三十一番

林 友幸

○議長 東久世 通禎 午前ノ續會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○二番 細川 潤 次郎 甚タ輕微ナル修正説ヲ提出セン即チ本案刑法ノ下

「ノ」ノ一字ヲ削除シ刑法數罪俱發云云ニ作ラントス

○四番 野村 素介 賛成

○議長 二番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○四十番 渡邊 洪基 二番ヲ賛成ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ二番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ
起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ二番ノ修正説ニ決ス次條ニ移ル可シ

書記官 森山 茂 朗讀

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取リ又ハ交換シタル物品贓物ニ係

ルモノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害者ニ還付警察署ニ領置ス

ヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス

○番二番黒田綱彦 修正委員ニ質問セン本案末項ニ朱字ヲ加ヘ若シ被

害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒スト有ルハ例ヘハ

被害者自己ノ物品ナルヲ證明シ官府モ亦之ヲ確認スルトキハ假令

ヒ一旦官沒セシ物品ト雖モ之ヲ被害者ニ還付スルノ意ナル歟將タ

既ニ官沒セハ之ヲ還付セサルノ意ナル歟

○八番伊丹重賢 還付セサルノ意ナリ既ニ官沒セシ上ハ概シテ之ヲ公賣

ニ付スヲ例トス素ヨリ永遠領置ス可ラサルナリ故ニ此ノ場合ニ於

テハ本人ノ不幸タルノ外ナカラシ

○四十番渡邊洪基 本官ハ元來質問ヲ爲スヲ好マサルモ聊カ修正委員ノ

答辨ヲ煩ハサン本案「一年ノ後官沒ス」ト有ルハ即チ他ノ法律ニ準
擬セシ者ニ係ルヤ否

○十五番柴原和 他ノ法律ニ準擬セシ者ニ非ス即チ主務官ノ意見ヲ問

ヒ且從來賊難申告書ノ類ニ據テ考フルニ或ハ旅行等ノ故ナキニ於

テハ一年ヲ經テ仍ホ被害者ノ知レサリシ者ハ概シテ之レ無キニ由

ル但シ修正委員會ニ於テ之ヲ三年ノ後ニ作ラントノ説アリシモ若

シ然スルトキハ其贓物ヲ保管スルカ爲メ或ハ官庫ヲ設ケテ之ヲ格

護シ而シテ其物品ニ符牒ヲ附スルカ如キ煩雜ヲ生セン然ルニ實際

ノ景況ハ前陳ノ如クナルヲ以テ遂ニ然スルヲ須ヒス本案ノ如ク決

定セルナリ

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本條ニ同意者ハ起立セヨ

起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ル可シ

書記官 森山茂 朗讀

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本條ニ同意者ハ起立セヨ
起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ル可シ

書記官 森山茂 朗讀

第二十四條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事 東京府ヲ除ク 縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本條ニ同意者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○二番 細川潤次郎 少シク變例ニ似タルモ議長ニ建議ス本案組織ノ大體

ハ頗ル整頓セルモ只用字ノ例一ナラサルヲ憾ム即チ第六條中交換シ及ノ下ニ「ヒ」ヲ送り第十六條第二項中ニハ「ヒ」字ヲ付セス但シ同

條第一項中「年齢及物品」ト掲クル如キ漢文體ヲ爲セル者トノ差アルハ妨ケ無キモ等ク交換シ及寄藏ト言ヘルニ彼此異ナル有ルハ安

當ナラス又修正委員ノ新加セシ第十一條第十八條中直ニ云云ノ直下ニ「チ」ヲ送ラス而シテ第十二條ハ原案ニ仍テ「チ」ヲ送り彼此其例ヲ異ニセリ是亦妥當ナラス然ルニ本官ノ意見ヲ以テセハ此送り字

ノ如キ共ニ之ヲ削ルヲ可トス然レトモ今特ニ之ヲ修正説トシテ議
場ニ提出スルモ殆ト價ヒ無キニ似タリ因テ修正委員ノ協議ヲ以テ
修正アラシコトヲ望ム

○十五番

柴原和

二番ノ建議ハ大ニ可ナリ本官等本案修正ニ方リ第十
一條ノ「一個年」ト有リシ「個」字ヲ削リシハ第十九條ノ「一年內」ト言
ヘルニ倣ヒ第十六條第六項ノ「住居」ト有ルヲ「住所」ト修正セシモ亦
他條ト其字例ヲ一ニスルカ爲メナリ蓋シ意義ニ於テ異ナル無クハ
文字ハ一ニスルニ如カス只今二番ノ摘出セシ用字ノ一様ナラサル
ハ全ク本官等注意ノ此ニ及ハサリシナリ是等ハ原案ニ據ルモ修正
案ニ據ルモ何レカ其一例ニ居ルヲ可トス因テ其建議ノ如クナラン
コトヲ望ム

○八番

伊丹重賢

十五番ノ言ノ如シ原案ノ「盜賊」ト有ルヲ「贓物」ト改メ「商
品」ヲ「物品」ト改メタル等皆文字ヲ一定ニ爲サントノ旨趣ニ出タリ
本官モ二番ノ建議ヲ可トス

○外一番

水本成美

原案第六條中「及」字ノ下「ヒ」ノ字ヲ送リシハ全ク謄寫
ノ錯誤ナリ即チ其第七條第十二條第十五條中皆「ヒ」ノ字ヲ添ヘサ
ルヲ以テ知ル可シ故ニ本官ハ此正誤ヲ告ント欲セシニ既ニ機會ヲ
失セシモ今之ヲ各位ニ報道ス且原案ハ「直」字ノ下ニ「チ」ノ字ヲ付シ
修正案ハ之ヲ付セス是等ハ何レカ其宜キニ隨ヒ修正シテ可ナラン
○議長 二番建議ノ事ハ尙ホ修正委員ト協議ス可シ第二讀會ハ此ニ
終リ第三讀會ハ更ニ日次ヲ定メテ報告セン散會セヨ

午後第一時閉場

○第一番 水木 〇第二番 水木 〇第三番 水木 〇第四番 水木 〇第五番 水木 〇第六番 水木 〇第七番 水木 〇第八番 水木 〇第九番 水木 〇第十番 水木 〇第十一番 水木 〇第十二番 水木 〇第十三番 水木 〇第十四番 水木 〇第十五番 水木 〇第十六番 水木 〇第十七番 水木 〇第十八番 水木 〇第十九番 水木 〇第二十番 水木 〇第二十一番 水木 〇第二十二番 水木 〇第二十三番 水木 〇第二十四番 水木 〇第二十五番 水木 〇第二十六番 水木 〇第二十七番 水木 〇第二十八番 水木 〇第二十九番 水木 〇第三十番 水木 〇第三十一番 水木 〇第三十二番 水木 〇第三十三番 水木 〇第三十四番 水木 〇第三十五番 水木 〇第三十六番 水木 〇第三十七番 水木 〇第三十八番 水木 〇第三十九番 水木 〇第四十番 水木 〇第四十一番 水木 〇第四十二番 水木 〇第四十三番 水木 〇第四十四番 水木 〇第四十五番 水木 〇第四十六番 水木 〇第四十七番 水木 〇第四十八番 水木 〇第四十九番 水木 〇第五十番 水木 〇第五十一番 水木 〇第五十二番 水木 〇第五十三番 水木 〇第五十四番 水木 〇第五十五番 水木 〇第五十六番 水木 〇第五十七番 水木 〇第五十八番 水木 〇第五十九番 水木 〇第六十番 水木 〇第六十一番 水木 〇第六十二番 水木 〇第六十三番 水木 〇第六十四番 水木 〇第六十五番 水木 〇第六十六番 水木 〇第六十七番 水木 〇第六十八番 水木 〇第六十九番 水木 〇第七十番 水木 〇第七十一番 水木 〇第七十二番 水木 〇第七十三番 水木 〇第七十四番 水木 〇第七十五番 水木 〇第七十六番 水木 〇第七十七番 水木 〇第七十八番 水木 〇第七十九番 水木 〇第八十番 水木 〇第八十一番 水木 〇第八十二番 水木 〇第八十三番 水木 〇第八十四番 水木 〇第八十五番 水木 〇第八十六番 水木 〇第八十七番 水木 〇第八十八番 水木 〇第八十九番 水木 〇第九十番 水木 〇第九十一番 水木 〇第九十二番 水木 〇第九十三番 水木 〇第九十四番 水木 〇第九十五番 水木 〇第九十六番 水木 〇第九十七番 水木 〇第九十八番 水木 〇第九十九番 水木 〇第一百番 水木

元老院會議筆記

明治十六年十二月二十二日

禁傍聽

第四百六號議案

古物商取締條例ノ儀

第三讀會

第四百十八號議案ノ第一讀會ヲ畢ル後チニ開場ス

議長 東久世 通禧

出席議員

- 三番 箕作 麟祥
- 四番 野村 素介
- 七番 鍋島 直彬
- 八番 伊丹 重賢
- 十番 大給 恒
- 十一番 榎村 正直
- 十三番 西村 貞陽

十四番	稅所	篤
十五番	柴原	和
十八番	西	周
十九番	上杉	茂憲
二十番	大鳥	圭介
二十一番	黑田	清綱
二十五番	鍋島	幹
二十七番	河田	景與
二十八番	大久保	一翁
二十九番	渡邊	清
三十番	伊集院	兼寛

三十一番	林	友幸
三十二番	三浦	安
三十五番	本田	親雄
三十六番	神田	孝平
三十八番	楠本	正隆
三十九番	津田	眞道
四十番	渡邊	洪基
四十一番	井田	讓
四十二番	宮本	小一
四十三番	田邊	太一
四十四番	水本	成美

内閣委員

番外

參事院議官

水本 成美

同 閣 外 員 二 番 參 事 院 議 官 補 黑 田 綱 彦

四 十 番 太 六

○ 議 長 第 四 百 六 號 議 案 ノ 第 三 讀 會 ヲ 開 ク 官 本 小 一

書 記 官 森 山 朗 讀 四 十 番 太 六

布 告 案 四 十 番 太 六

古 物 商 取 締 條 例 別 冊 ノ 通 制 定 シ 本 年 八 月 日 ヲ 施 行 ス

右 奉 勅 旨 布 告 候 事 三 十 八 番 太 六

○ 議 長 發 議 ナ キ ヲ 以 テ 決 ヲ 取 シ 本 案 ニ 同 意 者 ハ 起 立 セ ヲ

起 立 者 二 十 七 人 三 十 五 番 本 田 隆 雄

○ 議 長 多 數 ナ ル ヲ 以 テ 本 案 ニ 決 ス 三 十 二 番 太 六

○ 四 十 番 渡 邊 洪 基 本 官 ハ 布 告 案 中 「 本 年 月 日 」 ト 言 ヘ ル 「 本 」 ノ 字 ヲ 削 除 セ

シ ト 欲 ス ル ナ リ 發 言 ヲ 許 ス ヤ 否

○ 議 長 既 ニ 發 言 ノ 機 ヲ 失 シ タ レ ハ 今 之 ヲ 奈 何 ト モ ス ル 能 ハ ス 即 チ

次 條 ニ 移 ル 可 シ

書 記 官 森 山 朗 讀

古 物 商 取 締 條 例

○ 第 一 條 古 物 商 ト ハ 古 道 具 古 本 古 書 畫 古 着 古 銅 鐵 漬 金 銀 ヲ 賣 買

者 ヲ 營 業 ヲ 云 フ

買 袋 物 屋 小 間 物 屋 鼈 甲 屋 時 計 屋 飾 屋 箔 打 屋 煙 管 屋 ニ シ テ 其 營 業 ニ

屬 ス ル 古 物 ヲ 賣 買 交 換 ス ル 者 及 刀 劍 商 ハ 此 條 例 ニ 準 據 ス ヘ シ

○ 四 十 番 渡 邊 洪 基 本 案 第 三 項 中 「 及 刀 劍 商 」 ノ 四 字 ヲ 削 除 セ ン ト ス 抑 モ

刀 劍 商 ト ハ 即 チ 刀 劍 ヲ 作 ル 者 ナ リ 曩 ニ 廢 刀 令 發 布 以 來 今 日 ニ 在 テ

ハ既ニ古物即チ骨董ニ類スル刀劍ヲ賣買スル者ヲ指シテ刀劍商ト
 ○公認スルハ太々妥當ナラス其純然タル刀劍商ハ則チ制度上ニ定メ
 タル刀劍ヲ作ル者是レナリ今其稱呼ノ當否ハ之ヲ措キ苟モケイツ
 買ヲ提轄スル條例ヲ以テ刀劍商ヲ拘束スルハ法律ノ體面モ亦宜シ
 キヲ得ス但シ古物商ヲ提轄セハ自然ニ刀劍ニ及フ可シ特ニ是等ノ
 文字ヲ加フルヲ要セス向キニ第二讀會ニ於テ原案第八條ヲ恢復シ
 隨テ修正委員ノ提出セシ意見書モ消滅セシヲ以テ本日ハ時機ヲ俟
 テ第八條ニ一項ヲ加フルノ修正說ヲ提出セントス今豫メ其文案ヲ
 陳シニ即チ前項ノ物品ハ店頭ヘ展列ス可ラサルモノトス違フ者ハ
 警察官ニ於テ直ニ之ヲ取上クヘシト言ヘル是レナリ要スルニ國事
 犯若クハ治安ノ妨害者ヲ防制スルノ法案ナリトセハ敢テ論セス本

案ハ即チ強竊盜トケイツ買トノ聯合ヲ遮斷スルノ目的ニ成ル者ナ
 レハ特ニ刀劍商ノコトヲ掲クルヲ須ヒス但シ之ヲ削除スルモ刀劍
 商ハ放任シテ可ナリト謂フニ非ス即チ之ヲ明記セハ制度上ニ定メ
 タル刀劍ニ波及スルノ不是ナルヲ以テナリ各位此旨趣ヲ領シテ贊
 成アラシコトヲ望ム

○三十一番 林友幸 賛成

○三十九番 津田眞道 及刀劍商ノ四字ハ削除スルモ可ナリ存置スルモ或

ハ可ナラン然レトモ第二讀會ニ於テ既ニ原案第八條ヲ恢復セル以
 上ハ寧ロ四十番ノ動議ニ左袒セントス

○四十三番 田邊太一 賛成

○議長 四十番ノ修正說ハ賛成者定員ニ充タサルヲ以テ消滅ス他ニ

○發議ナクンハ本條ノ決ヲ取ン本案ニ同意ノ者ハ起立セヨ

○起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス以下本席ノ考量ヲ以テ數條ヲ連帶シテ議題ニ付セン

○書記官 森山 茂 朗讀

○第二條 古物商ハ所轄警察署ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認

可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン第二條乃至第四條ニ同意者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ル可シ

書記官 森山 茂 朗讀

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癲者及雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其證人

タルトキハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品及兵卒ノ被服軍裝ハ其賣却シ得ヘキコトヲ證明スル證人貳名以上アルニ非サ

レハ之ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サル、コトアルヘシ

○四十一番 井田 讓 第二項ヲ修正セン即チ第二讀會ニ方リ既ニ提出セ

シ説ニ係ルモ當時陳辨ノ足ラサル爲メカ賛成ヲ得サリシヲ以テ更ニ之ヲ提出ス抑モ兵卒ノ被服軍裝ハ假令ヒ何名ノ證人アルモ其賣却ヲ許ササル時アリ又徽章ヲ剝去セハ隨意ニ之ヲ賣却スルヲ得ルコトアリ是レ猶ホ巡查ノ被服ノ若干月ヲ經ハ之ヲ賣却スルニ自由ナルカコトシ伍長軍曹ノ被服等ニ於ルモ亦同シ故ニ此「及兵卒ノ被服軍裝」ノ文字ヲ存スルトキハ事實ニ於テ障碍アルヲ免レス因テ此八字ヲ削ラントス幸ニ定數ノ賛成者ヲ得テ問題トナランコト

ヲ望ム

○十五番 柴原 和 賛成ス兵卒ノ被服等ニ關シテハ本官嘗テ之ヲ内閣委

員ニ質問セシニ兵卒ノ被服等ハ之ヲ賣却スルヲ許サス然ルニ兵卒逃亡等ノ時ニ際シ毎ニ之ヲ賣却スルヲ以テ其實買ヲ提轄スルハ頗ル緊要ナリト答ヘリ因テ本官ハ第二讀會ニ於テ四十一番ノ動議ニ對シ前陳ノ旨趣ヲ以テ之ヲ辨斥セリ然リ而シテ爾後陸軍給與概則第五十三條ヲ觀ルニ恰モ目今四十一番ノ言ノ如ク兵卒ト雖モ被服等ヲ賣却シ得ルノ事項ヲ載セタリ然ラハ則チ此八字ヲ存セハ必ス事實ニ支障アルヲ知ル故ニ本官ハ修正委員ノ一人ナルニ拘ハラス
○四十一番ノ動議ニ左袒ス

○四十番 渡邊 洪基 賛成

○三十八番 楠本正隆 賛成

○三十五番 本田親雄 賛成

○十一番 榎村正直 賛成

○議長 四十一番ノ修正ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三番 箕作麟祥 本官モ修正委員ノ一人ナリ此兵卒ノ被服云云ニ關シテ

ハ前日來更ニ查究セシニ本項中此文字ヲ載セタルハ錯誤ニ外ナラサルヲ悟レリ因テ現問題ニ賛成ス

○十番 大給恒 現問題ヲ是認ス十五番三番ノ辨明セル如ク此事項ニ就

テハ本官等尙ホ審討セシニ全ク贅疣ナルヲ覺レリ故ニ本官等ハ既ニ之ヲ除カント内決セルナリ

○八番 伊丹重賢 本官モ修正委員ノ一人ナルニ拘ラス現問題ニ左袒ス若

シ此動議ナカリセハ各修正委員ニ代テ本官之ヲ提出セント欲セシナリ

○三十九番 津田具道 賛成ス縱令ヒ本官ハ今之ニ賛成ヲ表セサルモ修正

委員一同既ニ之ニ賛成セシナレハ此問題ハ必ス可決ス可シト信ス

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ン四十一番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二十五人

○議長 多數ナルヲ以テ四十一番ノ修正說ニ決ス次條ニ移ル可シ

書記官 森山茂 朗讀

第六條 先ニ 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス 盜罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受

ケタル者ヨリ 詐欺取財ノ罪 物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察

官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ營業者タルト否トヲ問ハス一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

○四十番渡邊洪基 本官ハ本條ヲ全ク削除シテ他ニ之ヲ移サントス蓋

シ本案ハ之ヲ原案ニ比スレハ稍是ナルカ如キモ而モ仍ホ支障アルヲ免レス請フ其理由ヲ陳ン抑モ本條ノ旨趣タル古物商ニシテ一旦

盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條等ノ處斷ヲ受ケタルト

キハ他ノ古物商ハ其者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルニハ必ス警察官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ許サスト云フニ在リ但シ古物商

ハ必ス惡人ノミト決セハ本條モ亦或ハ不可ナキモ然ク惡人ノミニ

非ス且ヤ其營業ハ既ニ官府ノ公許セル者ナリ畢竟本條ハケイゾ買

ト偷兒トノ聯絡ヲ絶ツノ目的ナルニ本案ノ如ク一旦盜罪等ノ處斷

ヲ受ケシ者ハ終身善ニ歸スルコト無シト認定セシハ甚タ解セサル

所トス看ヨ刑法ノ監視ノ如キ各若干ノ期限アリ現ニ本案ノ特別取

締ニ於テモ三月以上三年以下ノ期限ヲ付セリ既ニ受刑者ニ對シテ

ハ多少檢束法ヲ設クルハ已ムヲ得サルモ畢生間手足ヲ束縛シテ自

由ヲ得セシメサルカ如キハ素ヨリ不可ナリトス到底本案ノ如クン

ハ一旦盜罪等ノ處斷ヲ受ルトキハ假令自己得意ノ營業モ遂ニ繼續

スル能ハス從テ善ニ移ルノ途ヲ杜ク者トス因テ本官ハ本條ヲ削除

シ先ニ盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法云云ト修正シテ之ヲ第十六條第

三項ノ次ニ挿入セントス定數ノ賛成者ヲ得テ問題トナラハ幸ヒ甚

シ

○四十二番宮本小一 賛成ス彼レ一旦罪ヲ犯セルモ其刑期ヲ畢ラハ一般

○人民ト同一ノ權利ヲ得セシメサル可ラス然ルニ其賣却セントスル
物品ハ假令ヒ幾許ノ星霜ヲ經ルモ警察官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ
購求ス可ラスト云ハハ終身幾分ノ權利ヲ剝奪セルニ異ナラス是レ
甚タ不可ナリ故ニ本官ハ第二讀會ニ方リ一ノ修正說ヲ提出セシモ
不幸ニシテ行ハレス只今四十番ノ動議ヲ聽クニ其旨趣恰モ本官ノ
意ト適合セリ是レ之ニ左袒セル所以ナリ

○三十八番 楠本 正隆 賛成ス抑モ本案ハ現行八品商取締規則ヲ擴充シテ
以テ一ノ法典ト爲セル者ナリ本官曾テ病ニ罹リ第二讀會ノ論說ヲ
聽ヲ得ス又本官ノ意見ヲモ開陳セサリシカ竊ニ謂ラク今此法律ヲ
制立セハ古物商ニ不便ヲ與フルヤ必スト雖モ彼ノ物品ヲ他府縣ニ
輸送スル如キハ最モ提轄ヲ嚴ニシテ可ナリ而シテ其他ノ事項ニ於

テハ務メテ寛容ニシ以テ法律ノ繁細ナラサルヲ期ス可シ若シ然ラ
サレハ所謂角ヲ切テ牛ヲ殺スノ悔アラシ此第六條ノ如キ甚タ理由
ニ乏シ因テ四十番ノ動議ニ左袒ス

○四十三番 田邊 太一 本官ハ第二讀會ニ際シ四十二番ノ修正說ニ賛同セ
シモ議場ノ采ル所トナラス今四十番ノ動議ハ其旨趣原ト同一ナル
ヲ以テ更ニ之ヲ賛成ス但シ本條削除ノ後ノ修正ニ至テハ本官ハ聊
カ意見ヲ異ニス故ニ時機ヲ得ハ或ハ之ヲ提出ス可シ賛成ヲ表スル
ノ次テ併セテ之ヲ陳フ

○三十一番 林友 幸 賛成

○三十五番 本田 親雄 賛成

○議長 四十番ノ動議ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス時午ヲ

過クルニ因リ午餐ノ爲メ暫ク本會ヲ中止セン散會セヨ

午後零時十分閉場

午後零時四十分開場

退席

十四番

税所 篤

同

二十五番

鍋島 幹

○議長 午前ノ續會ヲ開ク

○四十番 渡邊 洪基

第六條削除ノ說幸ニ問題ト爲レリ抑モ本案ノ如キハ

概シテ古物商ハ不良ノ徒ニシテ而モ此法律ニ遵ハサル者ノミ受刑者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルニ至ラン何トナレハ警察官ノ許可ヲ得テ後チ物品ヲ買取り又ハ交換スル如キ煩雜ナル順叙ヲ履ム

ハ人情ノ厭フ所ナレハナリ故ニ善良ナル古物商ニ就テ物品ヲ賣却スルノ途ハ本條ヲ以テ閉塞シ却テ不良ノ古物商ヲ益スル有ラン且ヤ一旦犯罪ノ處行アルモ終身物品ヲ賣却スルヲ拘束セラ、ルル如キハ遂ニ歸善ノ道ヲ塞クト謂フ可シ然ルニ問題ノ如ク本條ヲ削除シ而シテ之ヲ特別取締ノ條則中ニ挿入スルトキハ啻ニ前陳ノ提轄ニ便利ナルノミナラス既ニ期限ノ定メ有ルヲ以テ能ク其條理ニ合ス現問題ハ只條則ノ位地ヲ轉シ聊カ文字ヲ換フルニ過サルモ其影響ノ及フ所亦タ至大ナリトス因テ本官ハ熱心ニ然カセンコトヲ望ム

○外番二番 黒田 綱彦 本條ノ旨趣ハ第一讀會以來屢開陳セシニ今日ニ至リ此動議ノ出ルハ恐ク本員等ノ辨明ノ充分ナラサリシニ由ル可シ夫レ本案ノ目的タルケイヅ買ト偷兒トノ聯絡ヲ遮斷セント欲スルニ

在ルハ言フヲ俟タサルモ仍ホ此ケイヅ買中彼ノ親分ト乾兒トノ聯絡ヲ遮斷スルニ在リ原來親分ト乾兒トハ互ニ聯絡ヲ串通スル者ナルヲ以テ親分ノ罪跡將ニ發覺セントスルヤ乾兒ハ其罪ヲ已レニ負フテ之ヲ自首シ親分ハ毎ニ法網ヲ免ルルヲ得是レ今日ノ通弊ナリ若シ夫レ本條ヲ特別取締ノ中ニ移スカ如キハ則此弊患ヲ滋蔓シ彼ノ刑法第三百九十九條等ノ處斷ヲ受ケタル者ノ物品ハ概シテ親分ノ手ニ歸シ本條ノ効用ハ一モ之レ無キニ至ラン四十番ハ惟タ第一ノ目的タル偷兒トケイヅ買トノ聯絡ヲ絶ツニノミ注目シ第二ノ目的タル親分ト乾兒トノ串通ヲ斷ツヲ意トセサルニ似タリ且其無期限ヲ不是トスルノ駁說アルモ到頭此動議ハ本案ノ旨趣ニ悖戾シ寧ロ廢案ニ付スルト相去ルコト遠カラス即チ前會ノ辨明ヲ補陳スル

コト爾リ

○十五番 柴原和

問題ノ非ナルハ番外二番ノ論辨セル如シ本條ハ第二讀會ニ方リ營業者タルト否トヲ問ハスト言ヘル文字ヲ削ラントノ動議アリシモ消滅シ今四十番ノ所說モ亦是等ノ文字ヲ削リ以テ特別取締條則中ニ移サント云フニ在ルモ此營業者以下ノ一句ハ即チ本條ノ主眼ト稱ス可キ者トス何トナレハ若シ原案ノ如キハ其罰無營業者ニモ波及シ本案ニ仍レハ其然ラサルヲ以テナリ然ルニ主務省ノ草案ニハ「同業者タルト否トヲ問ハス」ト有リ蓋シ同業者ト言ヘハ古道具商若クハ時計商等同一商業者ヲ指スヤノ惑ヒヲ來サン是レ營業者ト記スル所以ナリ今若シ此文字ヲ削リ單ニ先ニ盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法云云ト爲スカ如キハ則チ是等ノ處斷ヲ受ケタ

ル素人ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルヲ得サルニ止マリ其營業者ハ度外ニ置カ如キ觀アリ原來本條ノ旨趣タル盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ト雖モ本案第二條ニ依リ公然古物商タルヲ得然ルニ既ニ其處斷ヲ受ケタル者ナルトキハ縱令ヒ古物商ト爲リタルト其否ヲサルトノ論ナク其者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換スル等ハ總テ警察官ノ許可ヲ得タル上ニ非サレハ爲ス可ラスト云フニ在リ故ニ或ハ論者ニシテ既ニ古物營業ヲ許可スル上ハ良シヤ從前ニ在テ奈何ナル犯罪ノ處斷ヲ受ケタルモ其者ヨリ物品ヲ買取ル等ハ敢テ干涉ス可ラスト云ハハ格別ニ屬シ其然ラサル限りハ到底敬服スル能ハサルナリ

○三番^{箕作麟祥}

四十番ノ說ヲ玩味スルニ原案並ニ本官等修正ノ旨趣ト

異ニシテ所謂別論ナリトス而シテ其非ナル所以ハ番外二番等ノ陳述ニ讓リテ贅セス然ルニ其贊成者ノ說ヲ聽クニ或ハ本條ニ違犯セハ素人ニモ罰ヲ加フル者ト了解セルニ似タリ十五番モ既ニ辨明セシ如ク本案「營業者タルト否トヲ問ハス」ノ文字ハ盜罪云云ノ上ニ冠フリ原ト冒頭ナル「古物商ハ」ト言ヘル註解ニ非ス古物商ノ註解ハ即チ第二條ニ之ヲ明記シ古物商中ニハ素人ノ有ル無キヤ明晰ナリ故ニ修正委員中嘗テ此營業者云云ノ文字ハ「處斷ヲ受ケタル者」ノ下ニ分註ヲ以テ之ヲ加ヘントノ說アリシモ若シ然セハ此營業者ノ文字ヲ誤解シテ各般ノ營業者ト妄認スルヤノ恐レ有リトシ遂ニ以テ本案ニ決定セシナリ今其文字ノ位地ニ關シテ混雜ヲ生セリト考フルヲ以テ之ヲ一辨ス

○番一 番水本 問題ニ對シテハ番外二番並ニ修正委員ノ辨駁アリシ

モ本條ハ本案中特ニ緊要ニ係ルヲ以テ敢テ一言セン四十番ノ動議ヲ諒スルニ本條ノ如キハ一旦罪ヲ犯セル者ハ良シヤ他日改心スルニ至ルモ終身舊營業ヲ繼續スル能ハス是レ歸善ノ途ヲ塞クニ異ナラサルカ故ニ宜ク本條ハ削除スヘシト云フニ在リ抑モ本條ノ旨趣タル番外二番モ述シ如ク偷兒トケイヅ買トノ聯絡ヲ斷ツヲ主眼ト爲スモ尙ホ他ニケイヅ買ノ親分ト乾兒トノ串通ヲ絶ツノ意ヲ包含ス若シ問題ノ如ク之ヲ特別取締條中ニ移ストキハ第二ノ目的ハ之ヲ奈何トモスル能ハス且乾兒ハ特別取締範圍内ニ入ルモ親分ハ毎ニ法網ヲ免ルルヲ以テ苟クモ營業者ノ良否ヲ問ハス一般ニ特別取締ニ付スルニ非サレハ終ニ本案ノ制定ハ畫餅ニ屬セン又四十番ハ

之ヲ不自由ナリト云ヘリ其不自由ナルハ即チ本條ノ豫期スル所ナリ然レトモ一旦盜罪ノ處斷ヲ受ケタル者ハ尋常ノ古物商ニ對シ自由ニ物品ヲ賣却スル能ハサルノミニシテ其素人ニ賣却シ若クハ尋常ノ古物商ヨリ物品ヲ買收スルハ共ニ支障アルコトナシ故ニ之ヲ不自由ト謂フハ可ナリ酷トハ謂フ可ラス然リ而シテ其不自由ナルハ即チ古物商ト偷兒トノ串通ヲ斷ツノ骨子ナルヲ以テ是亦已ムヲ得サルナリ本案ニ可決センコトヲ望ム

出席 三十七番 田中 芳男

○十番 大給 問題ノ非ナルハ各官已ニ辨シ盡セリ抑モ本條ハケイヅ買ト偷兒トノ聯絡ヲ絶ツニ二様ノ意ヲ包含セルハ内閣委員ノ言ノ如シ蓋シ此古物商ハケイヅ買ノ親分ニシテ營業者トハ即チ其乾兒

ナリト解釋スルモ或ハ失當ナカラシ反對論者ハ本條ニ仍レハ或ハ素人ニモ罰ヲ加フルヤノ憂ヘ有ルモ是レ決シテ然ラス又是等ノ提轄ハ特別取締ニ付セル者ニ對シテ入用アルモ尋常取締條中ニ掲クルハ順序ヲ失セリト云ヘリ然レトモ第十五條ニ「特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ云云」ト載スル如ク此「尙ホ」ト言ヘルハ即チ是等ノ提轄ヲ特別取締中ノ者ニ施及スルノ意ヲ示セルナリ是亦杞憂ヲ要セサル可シ

○三十二番^{三浦安} 現問題ハ非ナリ若シ本條ヲ削除シ之ヲ特別取締中ニ移スカ如キハ其特別取締ニ付スルニ至ルノ段階ヲ失シ終ニ提轄ノ効用ヲ見サルニ至ラン問題發議者ノ言ヲ聽クニ本條ヲ存セハ一旦盜罪等ノ處斷ヲ受ケタル者ハ善良ノ古物商ニ就テ物品ヲ賣却シ

又ハ交換スルコト無ク其物品ハ概シテ不善良ナル古物商ノ手ニ歸ス可シト說ケリ其說ヤ頗ル巧ミナルモ凡ソ是等ノ事ハ總テ提轄中ニ囊括セルヲ以テ亦敢テ顧慮スルヲ要セス爰ニ二番ハ「營業者云云」ノ釋義ヲ述ヘテ先ツ之ヲ處斷ヲ受タル者ノ下ニ加フヘキ挿註ト見ハ可ナリト云ヒ十五番ハ先ニ盜罪等ノ處斷ヲ受ケタル者モ既ニ古物商ト爲ルヲ得ルヲ以テ或ハ其者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルハ妨ケ無シト誤解スル者アルヤ知ル可ラス因テ此「營業者云云」ノ字句ハ緊要ナリト云ヘリ然ルニ一旦盜罪等ノ處斷ヲ受ケタル者ハ假令ヒ其素人ナルモ古物商ハ其者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルニハ必ス警察官ノ許可ヲ受ケサル可ラサル原則ヲ以テ觀レハ異日此者ニシテ古物商タランコトヲ望ムモ地方廳等ニ於テ之ヲ許可セ

サル可シ且既ニ許可ヲ得タル者ト雖モ曾テ犯罪アリシトキハ此法律ノ出ルヤ自然ニ轉業セサルヲ得サルニ至ラン然ラハ則チ十五番ノ言ノ如キ顧慮ハ之レ無カル可シ思フニ修正委員ノ原案「營業者云云」ヲ下ニ削リ以テ上ニ移セシハ畢竟原案ニ既載セシ文字ナルニ因ルナラン若シ之ヲ全削セハ三番ノ解釋ヲ要セス十五番ノ顧慮ヲ須ヒス寧ロ明瞭ナリトス因テ本官ハ現問題ノ消滅スルヲ俟テ之カ修正說ヲ提出セント欲スルナリ

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ン四十番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ

起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ四十番ノ修正說ハ消滅ス

○三十二番 三浦安 本官ハ前ニ豫陳セシ旨趣ヲ以テ此「營業者タルト否ト」ヲ問ハス「」ノ十二字ヲ削除セントス定數ノ賛成者ヲ得テ問題ト爲ランコトヲ望ム

○三十五番 本田親雄 賛成ス本官ハ本條ハ原案ト同シク罰ノ素人ニモ及フ者ナリトノ見解ヲ以テ前問題ニ左袒セシモ漸ク其然ラサルヲ知悉セリ因テ此「營業者云云」ノ十二字ハ愈以テ削除スルヲ是トス

○三十九番 津田眞道 賛成ス文章簡明ナルヲ以テナリ

○三十八番 楠本正隆 賛成ス聞ク前會ニ於テモ此文字ニ關シテ大ニ紛議

○ヲ生セリト云フ其レ然リ即チ此文字有レハ必ス疑惑ヲ生ス之ヲ削ルニ如カス

○四十一番 井田讓 賛成ス今日各官ノ討論審議ニ由テ初メテ此文字ノ

○意義ヲ解セリ苟モ之ヲ存シテ疑惑ヲ生スルヨリ寧ロ削去スルノ明
晰ナルニ如カス

○三十一番 林友 幸 賛成

○議長 三十二番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十五番 柴原 和 三十二番ハ一旦盜罪等ノ處斷ヲ受ケタル者ニハ古物

商タルヲ許ササル者ト述ルモ是決シテ許ササルノ理ナシ且第十四

條ニ云云ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ三月以上三年以下ノ特別取締

ニ付スルコトヲ得ト掲ケシ如ク往々特別取締ニ付セサルヲ得サル

ノ營業者アルヲ以テ大ニ此文字ニ必要アリ若シ之ヲ削ルトキハ論

者ノ見テ以テ古物商タルヲ許ス可ラスト認ムル如キ者ヨリ物品ヲ

買取り又ハ交換スル等ノコト有ルヤ必セリ常ニ法律ヲ解スルニ敏

ナル三十二番ニシテ此説アルハ抑モ奇ト謂フ可シ但シ本條ニ仍レ
ハ其罰ノ素人ニモ及フカ如キ觀想ヲ來スニ至テハ即チ本官等修正
ノ非ナルカ爲メニシテ是レ旨趣ノ非ナルニ非ス故ニ之ヲ修補スル
ハ固ヨリ可ナリ之ヲ削除セント言フニ至テハ領諾ス可ラサルナリ
請フ再考セヨ

○三番 箕作 麟祥 營業者云云ニ關シテハ既ニ陳辨セシヲ以テ復タ贅及セ

サラント欲スルモ今之ヲ削ルノ說問題ニ上リシ上ハ聊カ辨セサル

ヲ得ス或議官ハ云ク營業者云云ノ字義ハ修正委員ノ辨解ニ因リ稍

ク之ヲ解スルヲ得タリ先ニ誤解セシハ誤解者ノ罪ニ非ス即チ修正

ノ非ナルカ故ナリト大抵法文ハ漫然讀過シテ直ニ意義ヲ領會シ得

ヘキ者ニ非ス況シテ本案ノ如キ錯綜セル者ナルヲヤ抑モ古物商ト

ハ第二條ニ因テ管轄廳ノ免許ヲ得タル者ナリ故ニ既ニ古物商ト言
 ヘハ營業者ニシテ非營業者ナラサルハ照照火ヲ觀ルヨリ明カナリ
 トス然ラハ則チ此營業者云云ハ冒頭ノ古物商ノ註解ニ非スシテ處
 斷ヲ受ケタル者ニ付着スルノ外他ニ解釋ヲ下スヲ得ス故ニ尙ホ然
 ラスト爲スハ眞ノ誤解者ニシテ決シテ修正ノ不是ナルニ非ス又此
 文字ヲ下ニ削リタルハ可ナリ之ヲ上ニ移セルハ原案ニ此文字アリ
 シニ由ル可シト云フモ然ク無理由ニシテ之ヲ存セシニ非ス蓋シ一
 且盜罪等ノ處刑ヲ受ケタル者ト雖モ古物商タルヲ得ヘキハ屢次辨
 了セリ然リ而モ此等ノ處刑ヲ受タル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換
 スルトキハ必ス警察官ノ許可ヲ受ケサル可ラス若シ夫レ此文字ナ
 キトキハ先ニ是等ノ處刑ヲ受タル者ナルモ既ニ官許ヲ得テ古物商

業ヲ營ム限リハ其物品ヲ買取り又ハ交換スルハ妨ケ無シト誤解ス
 ル者ナキヲ期セス但シ既ニ云云ノ處斷ヲ受ケタル者ト掲クル上ハ
 營業者ト否トヲ問ハス自然其中ニ包含セサルニ非サルヲ以テ良シ
 ヤ之ヲ削ルモ強テ了解シ難キニ非ス故ニ本官ハ十五番ノ如ク此文
 字ハ緊要缺ク可ラストハ主張セサルモ其存否奈何ヲ定ムルニ於テ
 ハ寧ロ之ヲ存スルノ優レルニ如カスト信スルナリ

○八番 伊丹重賢

問題ノ非ナルハ各官ノ辨駁ニテ既ニ明晰セリ就中一旦

盜罪等ノ處斷ヲ受ケタル者ハ異日古物商タルヲ許サスト云ヘル説
 ニ對シテハ十五番ノ明辨ニ盡クセリト信ス問題賛成者ハ此十二文
 字ヲ存スルトキハ却テ文章ニ明瞭ヲ缺クト云ヒ其發議者モ更ニ幾
 分ノ理由ヲ附シテ之ヲ削除ス可シト論スルモ若シ之ヲ削レハ先ニ

既ニ盜罪等ノ處斷ヲ受クルモ今ヤ公然官許ヲ得テ古物商タル上ハ其物品ヲ買取り又ハ交換スルハ妨ケ無シトノ誤解ヲ生スルヤ必セリ故ニ條文ノ明瞭ナラサル有レハ宜ク好修正ヲ加フヘシ苟クモ明瞭ナラスト言テ之ヲ削ラントスルハ本官ノ從フ能ハサル所ナリ

○十番 大給 恒

本問題ノ前問題ニ比スレハ稍寬ナルモ尙ホ之ヲ是認スル能ハス三番ハ十五番ノ如ク熱心問題ニ抗論セスト云ヘルモ此營業者以下ノ文字ヲ轉加セシハ論者ノ言ノ如キ原案既載ノ文字ナルヲ以テ之ヲ舍ルニ忍ヒサル等ノ懦弱且姑息ナル事由ニシテ然ルニ非ス特ニ動議者ノ先ニ盜罪等ノ處斷ヲ受ケタル者ニハ古物商タルヲ許可セスト云フニ至テハ頗ル見解ヲ謬レリトス況ンヤ十五番ノ第十四條ヲ援テ論辨セル理由アルヲヤ又況ンヤ非營業者ニシテ眞

營業者ニ擬似シ以テ物品ヲ賣却シ又ハ交換スル者ナキヲ保ス可ラサルヲヤ論者モ更ニ一考セハ本修正ノ明瞭ナルヲ曉得スルニ至ラ

○三十五番 本田 親雄

修正委員ハ營業者以下十二文字ハ處刑ヲ受タル者ノ下ニ付着スル者ト解スルノ外ナシト云フモ奈何セン冒頭ヨリ古物商ハ營業者云云ト掲クルヲ以テ即チ古物商ニ付着ス可キ看アルヲ免カレサルヲ又良シヤ論者ハ然ラスト云フモ本官等ノ如ク衆庶ノ之カ解釋ニ惑フアラハ如何セン是レ三十二番ニ左袒セサル可ラサル所以ナリ

○七番 鍋島 直彬

目下ノ景況ヲ察スルニ反對論者ノ要點ハ只營業者云云ト言ヘルハ解シ難シト云フニ歸スルカ如シ原來公然古物商ト指ス

ハ即チ管轄廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ然ク唱フル能ハス而シテ其既ニ許可ヲ受ケタル者ハ即チ營業者ニシテ素人ナラサルヤ言ヲ俟タス苟クモ此ノ如キ明亮ナル事項ニ對シ故サラニ營業者タルト否トヲ問ハス等ノ註解ヲ下スノ理ハ萬萬之レ無シトス故ニ切ニ問題ノ消滅ヲ望ム

○三十二番 三浦安 本官提出ノ問題ニ對シテ喋々駁撃アリ就中十五番ハ第十四條ヲ援テ問題ノ非ナルヲ辨シ且深切ナル教戒ヲ承ク本官固ヨリ法律ヲ解スルニ敏ナラサルモ本修正ノ如キハ最モ領會シ易ヲサルヲ以テ修正委員ニ就テ數次之ヲ論討セリ是レ決シテ謾然看過シタルニ非ス本官前ニ第十四條ニ論及セサリシハ意ノ到ラサルニ非ス辯ノ到ラサリシナリ蓋シ先ニ盜罪等ノ處斷ヲ受ケ今既ニ古

物商ト爲リタル者ト述シハ即チ同條ヲ舉指セシニ外ナラス然リ而シテ先ニ一旦盜罪等ノ處斷ヲ受ケタル者ノ古物商タランコトヲ望ムモ管轄廳ニ於テ其營業ヲ許可セサルヤ本官ノ信シテ疑ハサル所トス何トナレハ堂々タル律文ニ云云ノ者ハ古物商タルヲ得ストハ明示スルヲ得サルモ凡ソ是等ハ皆行政官ノ宜ク斟酌スヘキ所ニ係レハナリ現ニ內閣委員モ云ヘル如ク方今偷兒トケイヅ買ト八方聯絡ヲ通シテ贓物ノ賣買ヲ爲スノ狀況アルモ奈何セン律ニ成文ナキヲ以テ之ヲ提轄スル能ハス故ニ此法案ヲ要スルニ非スヤ其レ然リ今ヤ此弊患ヲ防遏セントスルノ時ニ際シ既ニ盜罪ノ處斷ヲ受ケタル者ニ新ニ古物商ノ營業ヲ許可スル如キハ決シテ之レ有ル可ラサルナリ思フニ十五番ハ過去ト未來トヲ混視シテ彼ノ如キ駁議ヲ發

セシナラシカ又三番ハ條中處斷ヲ受タル者トアレハ營業者タルト
 否トヲ問ハサルノ意ハ自ラ其中ニ包含セルヲ以テ十五番ノ如ク敢
 テ熱心シテ問題ニ抗辨セスト云ヘリ乃チ修正委員中ニモ本官ト稍
 ヤ感ヲ同ウスル人アルヲ知ル委員ニシテ既ニ然リ寧ロ此字句ヲ削
 除スルノ優レルニ如カス且此文字ノ如キハ各議官中尙ホ疑團ヲ懷
 ケルアリ若シ之ヲ天下ニ布告スルトキハ其惑フ者アルヤ疑ヒ無シ
 却テ説ク本官前ニ修正委員ハ原案ニ此文字アリシカ故ニ之ヲ舍ル
 ニ忍ヒスシテ此ニ轉置セルナル可シト述シハ失言ナリ因テ今之ヲ
 謝ス然レトモ委員ノ之ヲ存スルヲ緊要ト爲スノ理由ニ於テハ本官
 一モ心服スル能ハサルナリ

○四十番 渡邊 洪基 營業者以下ノ文字ヲ削除ス可キヤ否ヤノ點ニ就テ虛

心平氣以テ考フルニ其之ヲ削ラサルモ敢テ解シ難キニ非スト爲ス
 或議官ハ一旦盜罪等ノ處斷ヲ受ケタル者ニハ古物商タルヲ許ササ
 ル可シト説クモ法ニ明文ナクシハ之ヲ許ササルヲ得ス畢竟其説ノ
 如キハ憶測推諉ニ屬シ之ヲ削除ス可キ理由ト爲スニ足ラス本官ノ
 動議既ニ消滅シ今本條ヲ存スルニ決セシ上ハ寧ロ之ヲ存スルヲ可
 トス

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ三十二番ノ修正ニ同意者ハ起
 立セヨ

○議長 起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ三十二番ノ修正説ハ消滅ス

○四番 退席 本官ハ營業者以下ノ十八番 西 周

○四番 野村素介 本官ハ營業者以下十二字ヲ脚註ト爲シ處斷ヲ受ケタル

ノ下ニ移サントス蓋シ本案ノ如キハ多少疑惑アルヲ免レス即チ過刻來種種論說ノ出ルモ畢竟同文字ノ位地其宜キヲ得サルニ是レ由レリ若シ本官所說ノ如クンハ以テ一目瞭然タリ幸ニ賛成者ヲ得テ問題ト爲ランコトヲ望ム

○三十六番 神田季平 賛成ス過刻來議論百出數次ノ修正說ハ皆消滅シテ今將サニ本案ニ決セントス然レトモ本案ノ如キハ到底誤解者アルヲ免レス前ニ三番ノ辨明中ニ此數文字ハ處斷ヲ受タル者ノ下ノ挿註ト爲サハ可ナラントノ說アリシヲ覺フ因テ若シ其說ヲ發スル者無クンハ本官代テ之ヲ提出セント欲セシニ幸ニ四番ノ發議アルニ遭フ因テ之ニ左袒ス要スルニ本案ハ此議場ニ於テスラ數名ノ誤解

者アリ必ス修正ナカル可ラサル者トス而シテ本官考フルニ今四番ノ陳シ如ク之ヲ修改スルノ外他ニ好手段ナカル可キヲ信ス

退席 七番 鍋島 直彬

同 二十九番 渡邊 清

○三十五番 本田親雄 賛成

○二十八番 大久保一翁 賛成

○三十八番 楠本正隆 賛成

○四十三番 田邊太一 賛成

○議長 四番ノ修正說ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番 水本成美 現問題ニ對シテハ或ハ沈黙ヲ守ル可キモ若シ然ク決

セハ本官ハ太々復命ニ困シムヲ以テ一言セサル可ラス從來管轄廳

等ノ下ニ東京府ハ警視廳ト記スル脚註ノ如キハ毎ニ之ヲ用フルノ
 例アルヲ見ルモ現問題タル營業者云云等ノ正條ニ掲ク可キ文字ヲ
 以テ之ヲ脚註ト爲シタル用例ハ未タ曾テ之レ有ラスト思惟ス本官
 ハ素ヨリ原案ヲ主持ス可キ職掌ナルニ拘ハラヌ修正案ノ如ク決ス
 ルモ決シテ意義ノ解シ難キニ非ス且修正案ノ如ク決セハ即チ復命
 ノ言アリ若シ問題ノ如クンハ本官其言ニ困シムヲ以テ之カ消滅ヲ
 希望ス

○十五番柴原和 現問題ハ前說ニ比スレハ稍是ナルモ本官ハ之ヲ賛成

スル能ハス其理由ハ三番モ既ニ辨スル如ク今之ヲ脚註ト爲ストキ
 ハ冒頭ナル古物商ト離隔スルヲ以テ所謂營業者トハ各般ノ營業者
 ヲ指スカ如キ觀想ヲ呈ス可シ故ニ嘗テ修正委員ニ於テモ一次ハ之

ヲ插註ト爲セシモ遂ニ本案ノ如ク改作セリ加之今番外一番ノ說ヲ
 聽クニ大ニ理由アルヲ覺フ且縱令ヒ本案ハ稍解シ易カラスト爲ス
 モ到底人民一般ニ關スル者ニ非ス警察官ニ在テ能ク其意義ヲ解發
 セハ即チ可ナリ因テ更ニ修正ヲ要セス

○四番野村素介 本官ノ修正說ニ就テ番外一番ハ之ヲ非難スルモ本官其

旨趣ノ有ル所ニ惑フ因テ質問セン抑モ內閣委員ハ營業者等ノ文字
 ハ脚註ト爲ス可キ文體ニ非ストナス歟將タ他ニ牽連シテ其意義ノ
 廣漠タルニ至ルヲ以テ之ヲ非トスルニ在ル歟本案第五條ニモ既ニ
 「雇人」ノ下ニ脚註ヲ加ヘシ例アリ本官ハ此脚註ニシテ其非ナル理
 由ヲ知ル能ハサルナリ

○外水本成美 第一番 第五條ニ脚註ハ不可ナシ是レ其雇主ノ家ニ在ラサル

○雇人モ亦是レ有ルヲ以テ其分界ヲ明晰スルカ爲メナレハナリ又第二條ノ東京府ハ云云ノ如キ共ニ脚註ノ性質ヲ備フル者トス特リ營業者云云ニ至テハ然ラス故ヲ以テ本官ハ敢テ本案ヲ賛成スルニ非サルモ各位ノ参考ニ供スルカ爲メ聊カ意見ヲ陳述セシノミ若シ例ヘハ營業者ノ下ニ營業者ニアラサル者ト記スル脚註ノ如キハ或ハ失當トハ謂フ可ラサラン然レトモ是亦望ム所ニ非サルナリ

○三十六番 神田孝平 一應本官ノ意見ヲ陳シ内閣委員ハ營業者云云ハ脚註ト爲ス可キ文體ノ者ニ非スト云フモ此類例モ亦全ク之レ無キニ非ス彼ノ第五條ノ脚註ノ如キモ之ヲ本文中ニ挿入スルハ得テ爲ス可ラサル者ニ非ス要スルニ是等朱子七書ニ註セル如ク僅々名物等ノ是非ヲ論スル者ト異ニシテ頗ル緊要ノ事項ナレハ文體文例ノ奈

何ハ強テ拘拘セスシテ可ナラン但シ本官ハ本條必ス修正セサル可ラスト云フニ非サルモ堂々タル議官ニシテ數名ノ誤解者アリ之ヲ公布スルヤ萬民ノ疑惑ハ推テ知ル可シ蓋シ文體其宜キヲ失スルト萬民ノ疑惑ヲ招クト其得失果シテ奈何敢テ請フ内閣委員ノ縱令ヒ内閣ノ譴責ヲ受ルモ萬民ノ爲メニ之ヲ含忍シ以テ本問題ヲ是認セシコトヲ

○四番 野村素介 前ニ番外一番ニ對シテ一箇ノ辨明ヲ請ヒタルモ今改メテ本官ノ意見ヲ陳シ抑モ本問題ノ如ク脚註ヲ下スモ決シテ解シ難キニ非ス又用法ニ於テモ不可ナカラン何トナレハ處斷ヲ受タル者トハ即チ人ヲ指スナリ而シテ此脚註ハ即チ其人ノ性質ヲ解釋スルニ在レハナリ又之ヲ脚註ト爲スノ體裁ニ於テ其可否奈何ハ素ヨリ

各自ノ所見ニ任ス可キモ從來此等ノ用例モ亦全ク無シトハ斷言ス
ル能ハサラン但シ本官ハ執拗之ヲ維持セント欲スルニ非サルモ到
底本案ハ誤解シ易キヲ免レサルヲ以テ良シヤ少ク體裁ヲ缺クニ至
ルモ其明瞭ヲ期スルニ如カスト信ス

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ン四番ノ修正ニ同意者ハ起立セ
ヨ

起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ四番ノ修正説ハ消滅ス

○四十三番 田邊 太一 本條ノ第一タル主眼ハ即チケイヅ買ノ親分ナル者
ト其乾兒ノ聯絡ヲ斷ツニ在ルハ之ヲ領セリ然レトモ一旦盜罪等ノ
處斷ヲ受ケタル者ノ物品ハ必ス警察官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ古

物商ハ之ヲ買取り又ハ交換スル能ハスト爲スハ其者ノ困難ハ實ニ
計ル可ラス故ニ本官ハ本條ヲ削除セント欲セシモ其動議ノ既ニ消
滅ニ歸セシ上ハ更ニ之ヲ緩和スルノ修正ヲ提出シ以テ初念ノ幾分
ヲ盡ササルヲ得ス茲ニ刑法第四百一條ヲ查スルニ既ニ詐欺取財其
他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買セ
シ者スラ刑期一年ニ止マリ罰金二十圓ニ限レリ然ハ則チ假令ヒ先
ニ盜罪等ノ處斷ヲ受ケタルモ今ハ公然古物商ヲ營ム者ヨリ物品ヲ
買取タル罰法ノ却テ彼ヨリ峻嚴ナルハ甚タ權衡ヲ失スルニ非スヤ
蓋シ此峻嚴ナルハ即チ親分ト乾兒トノ聯絡ヲ斷ツニ根底ス可キモ
古物商モ亦悉ク不良ノ徒トハ謂フ可ラス因テ本官ハ本案第十四條
ノ末文ニ倣ヒ之ヲ修正シテ違フ者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ

處。スト爲サントス幸ニ此動議ノ成立センコトヲ望ム

○四十二番宮本 小一 賛成ス本條ヲ存スルニ決セシハ又已ムヲ得サルモ

實ニ是レ苛酷タルヲ免レサルナリ

○議長 四十三番ノ修正說ハ賛成者定數ニ滿タサルヲ以テ消滅ス

○三十九番津田 眞道 種種ノ修正說皆既ニ消滅シ今ヤ將ニ本案ニ決セン

トス四十三番等ハ本條ヲ指シテ苛酷ナリト云フモ其苛酷ナルハ即

チ本案ノ主眼ナリト謂フモ不可ナカラン原來我刑法ハ寬ニ失シ毎

ニ罪人ノ數ノ増加スルニ困シム故ニ其刑法ノ改正ハ素ヨリ企望ス

ル所ナルモ而モ一大法典ノ然ク輕易ニ取舍ス可キ者ニ非ス是ヲ以

テ此等ノ姑息法モ亦今日ノ須要ナリトス殊ニ良民保護ノ點ヨリ論

下スルトキハ偷盜ハ悉ク死ニ致シケイヅ買ハ流ニ處スルモ尙且失

當ナラサル可シ因テ本案ハ少ク酷ナルニ似タルモ然ク可決センコ

トヲ望ム

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ本條ニ可決セリト做シテ次條ニ移ル可

シ

書記官森山 茂 朗讀

第七條 古物商自宅又ハノ許可ヲ受ケタル市場及賣主買主讓主讓受主ノ居

宅ノ外ニ於テ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本條ニ同意者ハ起立セヨ

○起立者十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ可決シ次條ニ移ル可シ

書記官森山 茂 朗讀

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者又ハ先

キ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡スコトヲ得ス

○四十番 渡邊 洪基 本官ハ本條ニ一項ヲ加ヘントス即チ前項ノ物品ハ店

頭ヘ展列ス可ヲサルモノトス違フ者ハ警察官ニ於テ直ニ之ヲ取上

クヘシ是レナリ蓋シ是レ第一條ニ修正說ヲ提出セシトキニ方リ豫

陳セシ者ニ係ル然ルニ該修正說ノ行ハレサリシ上ハ惟タ本條ノミ

修正スルハ或ハ權衡ヲ失スルニ似タルモ前條ノ事ハ今奈何トモス

可ラス由テ本條ノミ修正ヲ加フルコト爾リ

○三十九番 津田 眞道 賛成ス一般人民ノ安寧ヲ圖ラントセハ刀劍類ノ常

ニ強竊盜ノ用具ト爲ル可キ者ニ關シテ束縛法ヲ設クルモ亦已ムヲ

得サルナリ

○三十六番 神田 孝平 賛成ス是亦幾分カ強盜ヲ防クニ益ス可ケレハナリ

退席 四十三番 田邊 太一

○議長 四十番ノ修正說ハ賛成者定數ニ滿タサルヲ以テ消滅ス

○三十二番 三浦 安 本官ハ本條ヲ全ク削除スルヲ可トス嘗テ修正委員

ハ之ヲ削リテ修正ノ報告ヲ爲セシニ第二讀會ニ於テ原案ニ復セシ

ハ惜ム可シ其利害得失ハ當時既ニ論シ盡セルモ尙ホ之ヲ約言セハ

刀劍商ノ取締ハ第一條第二項ニ委シテ足レリトス且ヤ刀劍ハ既ニ

帶用スルヲ禁スルモ彼ノ銃砲彈藥ノ如キ取締規則アルニ非ス故ニ

之カ賣買ヲ提轄セントナレハ宜ク時機ヲ俟テ別ニ規則ヲ設クヘシ

苟クモ本條例ニ併載スルハ妥當ナラス啻ニ妥當ナラサルノミナラ

ス他ノ條則ハ悉皆人ト人トノ間ニ係ル者ナルニ獨リ本條ノミ物ニ

係ルノ不都合アリ且原案ニ之ヲ載セシハ一ハラ強盜豫防ノ旨趣ニ出タルナル可キモ僅ニ此一條ニ頼テ其目的ヲ果スコトハ到底望ム可ラス蓋シ刀劍商取締規則ニ就テハ嘗テ修正委員ヨリ意見書ヲ提出セシモ是亦少時間ノ調査ニ出タル者ナルヲ以テ遂ニ缺漏ヲ免レサリシ故ニ該意見書ハ前會ノ決議ノ如ク之ヲ棄却シ而シテ本條ヲ削除セントス然ルニ彼ノ強盜ヲ爲サント謀ル者ノ如キハ假令ヒ此一條アルモ之カ爲メニ刀劍ヲ買收スルヲ得サル等ノコトハ萬之レ無ク且此仕込タル器具トハ所謂仕込杖等ヲ指スナル可キモ其仕込杖タル固ヨリ刀劍ト異ニシテ法律ヲ以テ之カ携帯ヲ禁スル者ニ非ス然ルニ本條ノ如クンハ仕込杖モ亦禁制ノ物件ナルヤノ疑ヒ有リ要スルニ本條ハ其存否トモニ大徑庭ナキヲ以テ寧ロ削ルノ優レル

ニ如カス但シ若シ之ヲ削ルニ決セハ第九條ヲ第八條ト爲シ以下順次ニ條目ヲ改ムルハ言フヲ俟タス抑モ本條ヲ削除スルノ説ハ第二讀會ニ否決セシモ前陳ノ理由アルヲ以テ今默過スル能ハス幸ニ賛成者ヲ得テ問題ト爲ランコトヲ望ム

○十番 大給 本官ハ原ト之ヲ削除セント欲スル者ナリ然ルニ前會ニ於テ斯ク存在セシハ適マ缺席ノ日ニ係ルヲ以テ其理由ヲ詳ニセサレトモ當時ノ決議ニ至テハ眞ニ意想ノ外ニ出タリ因テ喜ンテ三十番ノ動議ヲ賛成ス且其理由ハ今特ニ喋喋セス

○三番 笑作 麟祥 賛成

○議長 三十二番ノ修正説ハ賛成者定數ニ至ラサルヲ以テ消滅ス

○十五番 退席 本官ハ西村貞陽

○十五番柴原和

本官ハ修正委員ノ一人ナリ嘗テ本條ヲ削除スルヲ可

トシ同委員ト連署シテ別ニ刀劍商取締規則設定ノ意見書ヲ提出セ

シモ仍ホ退テ考フル所アルヲ以テ今ヤ削除說ヲ再發セス然レトモ

多少之ニ修正ヲ加ヘサル可ラサル者アリ原來古物商ヲ取締ルニ本

條ノ如キ事項ヲ明載スルハ或ハ妥當ナラサルニ似タルモ或議官モ

述シ如ク第一條中賣買ノ文字ヲ掲クル上ハ其賣却ニ係ル事項ヲ載

ルモ亦緣故ナシト謂フ可ラス然ルニ第七條ニ既ニ古物商ノ尋常物

品ヲ買取り又ハ交換スルノ場所ニ制限ヲ付スル有ルヲ觀レハ刀劍

ノ如キ危險ノ具ヲ賣與スル場所ニ制限ヲ付セサルハ甚タ權衡ヲ失

セリ因テ本條ヲ修正シテ刀劍又ハ之ヲ仕込タル器具ハ身元詳ナラ

サル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及

ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得スト爲サントス蓋シ主務官ノ說

ク所ヲ聽クニ強盜ノ携持セル刀劍類ハ多ク神田柳原等ノ露店又ハ

路傍ニテ購求セル者ニ係ルト云フ是レ其場内ニ制限ヲ付スルハ提

轄ノ緊要ナルヲ知ルニ足ル或議官ハ本條ハ酷ナリト云ヘリ說ノ如

ク露店路傍ニ陳列セル刀劍類ハ最高價ニシテ或ハ拾圓ニ上ラズ然

ルニ第十四條ニ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處スト有ルヲ見レハ

或ハ酷ナルニ似タルモ而モ必スシモ最多限ノ罰金ヲ課ス可シト云

フニ非ス況シテ前陳ノ理由アルヲヤ既ニ本條ノ存スル上ハ敢テ本

修正ノ行ハレンコトヲ望ム

○三十九番津田眞道

賛成ス四十番ノ修正說ニ比スレハ一層宜キヲ覺フ

但シ之カ爲メ大ニ兇匪ヲ減スルニ至ラサルモ幾分カ減減スルノ益

アラシ

○三番箕作麟祥 賛成ス前ニ四十番提出ノ修正説ハ其旨趣是ナラサルニ非サルモ店頭ニ展列セル物品ヲモ取上ルト云フニ至テハ少シク安當ヲ缺ク故ニ同意セサリシノミ然ルニ第七條ハ物品買取りニ關シ本條ハ賣渡シニ係リ其權衡ヲ失スト云フニ對シテハ強テ喋論セサルモ強盜犯者ノ携持セル兇器ハ概ネ露店又路傍ニ於テ購求セシ者多シト云ヘル以上ハ之カ販賣ノ場所ニ就テ提轄ヲ加フルハ自然ノ理勢ナリ畢竟第八條ニ身元詳ナラサル者等ニ賣渡讓渡スコトヲ得スト明示セルハ即チ人ニ關シテ設ケタル提轄法ナリ然ルニ前陳ノ如キ事實アルトキハ其場所ニ檢束ヲ設クルモ亦極メテ要用ナリトス因テ十五番ノ修正ニ決センコトヲ望ム

○八番伊丹重賢 賛成ス

○二十番大鳥圭介 賛成ス本官ハ素ヨリ本條ヲ存スルヲ望ム者ナリ而シテ第二讀會ニ於テ之ヲ存スルニ決セシ上ハ尙ホ十五番ノ説ノ如ク之ヲ修正シ以テ提轄ノ一助ト爲ス可シ

○十九番上杉茂憲 本官ハ原ト本條ヲ削除シ別ニ刀劍商取締規則ヲ設立セント欲セシモ行ハレス今此動議ノ如クモ以テ刀劍提轄ニ餘リ有リトハ思量セサルモ幾分カ本條ノ不足ヲ補フニ益アリトスルヲ以テ之ニ左袒ス

○二十八番大久保一翁 賛成

○議長 十五番ノ修正ハ定數以上ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外二番黒田綱彦 問題發議者ニ質疑セン露店トハ鄙俗ニホシミセノ意

義ナルハ解スルヲ得ルモ路傍トハ奈何ナル意義ナリヤ甚タ解釋ニ困ムナリ内閣ニ復命ノ地ヲ爲サンカ爲メ之ヲ明示センコトヲ請フ

○十五番 柴原和

内閣委員ニ答ヘン露店トハ路頭ノ樹下若クハ其他ニ葦簾等ヲ張テ店舗様ヲ爲セル者路傍トハ風呂敷ヲ負ヒ又籠ヲ擔キ來リ即チ路傍ニ在テ行人ニ物品ヲ賣買スル者ヲ指スナリ蓋シ露店路傍ノ文字ハ警視官モ之ヲ有要ナリト云ヘリ加之此文字ハ刑法ニモ之ヲ載セタリト覺フ參事院ハ立法ノ府源ナルヲ以テ内閣委員ハ必ス之ヲ記憶セルナル可シ因テ之ヲ質問ス

○番二番 黒田綱彦

十五番ノ反問ヲ得タリ說ノ如ク路傍ノ字ハ刑法第四百二十八條第七項ニ掲クルモ露店又ハ路傍トハ條則中終ニ之レ有ルヲ知ラス蓋シ刀劍ヲ提轄セントスルハ内閣ノ精神ナルヲ以テ本

條削除ノ說ニ對シテハ番外一番モ既ニ之ヲ抗辨セリ然ルニ現問題ノ如キハ即チ内閣ノ旨趣ヲ承ケ此取締ヲ一層嚴密ニ爲サントスルニ在レハ本員ハ素ヨリ之ニ非難スルノ理ナキモ復命ノ地ヲナサンカ爲メ尙ホ一回ノ質疑ヲ爲ササル可ラス抑モ四十番ヨリ提出セル前問題ノ如キ其刀劍類ノ店頭ニ展列ス可ラサル者トナスハ尙ホ不可ナキモ若シ之ニ違ヘハ其物品ヲ取上ヘシト云フニ至テハ其可ナルヲ知ラス是レ該問題ノ消滅セシ所以ナラン現問題中ニ所謂露店ト路傍トノ分解ニ至テハ頗ル惑ヒヲ生ス例ヘハ人家ノ廡下ヲ借テ古物ヲ商フ者ノ如キハ奈何ナル部類ニ入ントスルヤ警視官ハ此文字ノ有要ナルヲ解ケリト云フモ是レ或ハ一己ノ意見タルヲ知ラス要スルニ問題ノ如クンハ刀劍取締上ニ於テ奈何ナル効用アリト爲

スヤ本員ハ解スル能ハサルナリ

○十五番柴原和更ニ内閣委員ニ答ヘントス只今番外二番ハ刑法第四

百二十八條ニ就テ舉論スルモ尙ホ第四百二十七條第十四項ニ「官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者」ト有リ故ニ路傍ノ字ヲ掲クルモ決テ支障ナカル可シ而シテ人家ノ廡下ヲ借テ古物ヲ商フ者ノ如キハ蓋シ露店ノ部ニ加フルモ亦可ナラン要スルニ本案第二十三條ニ此條例ヲ施行スルノ方法細則ヲ設クルコトヲ示セル上ハ是等ノ類別ハ皆別法ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得ヘシ請フ番外二番ノ罪慮ナカラシコトヲ

○八番伊丹重賢路傍ノ字ハ十五番モ既ニ述シ如ク刑法中各所ニ散見セサルニ非サルモ再考スルニ此ニ露店ト言ヒ路傍ト言フハ其分界ニ

於テ稍妥當ナラサルヲ覺フ且刑法第四百二十七條第十四項ニ路傍云云ト掲ケシハ所謂路ノ傍ヲト云フノ意義ナル可シ現問題ハ本官ヲ加ヘテ既ニ六名ノ賛成者アリテ成立セシ者ナルヲ以テ本官ハ其賛成ヲ取消シ現問題ノ消滅スルヲ俟テ更ニ修正ヲ提出セントス今豫メ之ヲ陳レハ惟タ路傍ヲ改メテ路上ト爲ス是レナリ蓋シ此文字ハ刑法第四百二十九條第七項ニ倣フ者ニシテ其意義廣ク且提轄ニ便ナルヲ以テナリ

○三十五番本田親雄十五番ヲ賛成ス其弊ヤ路傍露店ニ於テ賣買スルニ在レハ之ヲ禁スルハ甚要用ノコトトス

○三十二番三浦安本案ニテ可ナリ更ニ修正ヲ要セス發議者ハ本條ハ第七條ト權衡ヲ異ニスト云フモ原來刀劍商モ此條例ニ準據シテ提

轄ス可キハ乃チ第一條ニ明載セルカ如シ而シテ本條ハ一層彼ヨリ

提轄ノ區域ヲ狹ウスル者ナレハ敢テ不權衡ナリトハ謂フ可ラス

○十五番柴原和 前ニ内閣委員ノ質問ニ答辨セシヲ以テ本修正説ヲ提

出セル旨趣ハ既ニ明白ナルモ或議官ハ本官ノ本條ト第七條トノ權

衡如何ヲ論セシヲ舉テ批難アルモ本官爾ク述シハ即チ賣ルト買フ

トニ係ル取締ノ權衡上ニ差異アルヲ指シタルナリ因テ一言以テ其

批難ノ的確ナラサルヲ辨ス

○三十九番津田真道 或議官ハ路傍ヲ路上ニ改ムルニ如カスト言テ賛成

ヲ取消シ時機ヲ俟テ其説ヲ提出セント云フモ路傍ト路上ニ於テ何

如ナル大差アリト爲スマ實ニ是レ五十歩百歩ノミ各位ノ現問題ニ

同意アラシコトヲ望ム

○四十二番渡邊洪基 賛成ス露店路傍ノ字句ニ關シ種種討論アルモ本條

ハ原ト匪徒ノ刀劍類ヲ購求スルノ途ヲ塞カントスルニ在レハ務メ

テ意義廣汎ナル文字ヲ用ヒ以テ提轄ノ周到ヲ期ス可シ嘗テ内閣委

員ノ説ヲ聽クニ今後紙屑買ノ如キハ單ニ紙屑ヲ買フニ止マリ苟ク

モ他ノ物品ヲ買ント欲セハ本條例ニ依リ鑑札ヲ受ルニ非サレハ之

ヲ許ササルノ精神ナリト云ヘリ然ルニ是等ノ徒ハ常ニ路傍ニ在テ

物品ヲ買取り又ハ賣與スル者ナルヲ以テ問題ノ如クンハ大ニ提轄

ノ便利ヲ得ン各位ニ於テ唯文字ノ如何ニ汲ヤトシ或ハ此旨趣ノ消

滅ニ歸セシエトヲ恐ル、ヲ以テ茲ニ蛇足ノ辨ヲ爲スコト爾リ

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ十五番ノ修正ニ同意者ハ起立

セヨ

起立者十四人

○議長 多數ナルヲ以テ十五番ノ修正ニ決ス次條ニ移ル可シ

書記官 森山茂 朗讀

第九條 古物商其商品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキハ其商品ノ

目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

警察署ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ検査ヲ爲ネコトアルヘシ

但費用ハ届人之ヲ擔當スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ可決ト做シテ次條ニ移ル可シ

書記官 森山茂 朗讀

第十條 盜贓ノ品觸アルトキハ其到達シタル日時ヲ簿冊ニ記載シ

買取品ニ注目シ若シ類似ノ物品ヲ見出シタルトキハ速ニ所轄警

察署ニ届出ツヘシ

第十條 品觸リ到達シタル日ヨリ一個年内ニ其物品ヲ買取リ若

クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シ又ハ轉賣シテ届出ヲ爲サス

而シテ其届出テサリシ理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條

ノ刑ニ同シ

第十一條 古物ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及品觸寫書ハ後證ノ

爲使用後十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直チニ所轄警

察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ商品及簿冊

ノ検査ヲ爲シ又ハ時々古物商ヨリ簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査ス

ルコトアルヘシ古物商ハ其検査ヲ拒ムコトヲ得ス

○十一番 正直 榎村 此第十一條中「一年內ニ類似ノ物品ヲ買取リ又ハ交

換シ」ノ下ニ及ヒ寄藏シノ五字ヲ插入スルヲ可トス蓋シ金銀等ハ

其餘解ヲ依託スル爲メ寄藏スルコトナシト謂フ可ラス然ルニ本條

ニ限リ此字ノナキハ實地ニ支障アルヲ免レサラントス

○四十番 渡邊 洪基 賛成

○四番 野村 素介 賛成

○三十一番 林友 幸 賛成

○三十五番 本田 親雄 賛成

○三十番 伊集院 兼寛 賛成

○議長 十一番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

退席 二十番 大鳥 圭介

同 三十八番 楠本 正隆

同 三十九番 津田 眞道

同 四十一番 井田 讓

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン十一番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ
起立者十人

○議長 多數ナルヲ以テ十一番ノ修正ニ決ス其他第十條第十二條第
十三條ニ對シ發議ナクンハ可決ト做シテ次條ニ移ル可シ

書記官 森山 茂 朗讀

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條

第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓

以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條^{四五} 第六條第十一條第十四條^四及刑法第三百九十九條第四百

一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商^{管轄廳東京府ハ}ハ警察署ニ於テ三月以上三年以下

ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條^{五六} 特別取締ニ付セラレタル者ハ尋常取締ノ外尙ホ左ノ項

目ニ從フヘシ

一 凡物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏

名年齢及物品ノ形狀^{徽章番號柄摸樣}損所ノ類ヲ云フ 價額年月日時ヲ簿冊

ニ記載スヘシ

二 日出前日歿後ハ物品ヲ買取り又ハ交換^{シ及寄藏}スルコトヲ得ス

三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキ

ハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四 凡物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價額年

月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り

得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其検査

ヲ受クヘシ

六 住居^所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントス

ルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

○議長 第十四條以下第十六條第六項ニ就テ發議ナクンハ可決ト做
シテ次條ニ移ル可シ

書記官^{森山 朗讀}

第十七條^{六七} 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處

第十八條 七八 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第

十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ之ヲ納完スルマテ拘留

セラル、コトアルヘシ

第十九條 八九 古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分

ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 九〇 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 九一 此條例ヲ犯シテ買取り又ハ交換シタル物品贓物ニ係

ルモノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハス追徴シテ警察署ニ領置ス

ヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス

○番一 番水本 些々タル事項ニ係ルモ一言セン本案第二十條中「刑法」

○ノ下ナル「ノ」ノ字ハ第二讀會ニ於テ之ヲ削除スルニ決セリ當時本

官ハ他ノ法律中必ス原案ノ如キ文例ナキニ非サル可シト思量セシ

○モ遠ニ其文例ヲ舉ル能ハサルヲ以テ默止セリ爾後酒造稅則第三十

七條或ハ釐麴營業稅則第十四條ヲ閱セシニ皆共ニ「刑法」ノ不論罪及

○ヒ云云數罪俱發ノ例「ト掲ケ且新聞紙條例第四十一條ニモ「刑法」ノ

○自首減輕云云數罪俱發ノ例「ト言ヘリ其他是等ノ文例ハ思フニ枚舉

○ニ違マアラザラン抑モ本案全部ノ修正タル特リ本條ヲ除クノ外都

○テ原案ヲ傷ケスシテ却テ美ヲ添ヘ善ヲ加ヘタル者多シ故ニ今本官

○カ企望スル所ハ所謂隴ヲ得テ蜀ヲ望ムニ近キモ第二十條ハ全ク原

○案ニ復センコトヲ請フ冀クハ各位中一ノ修正ト爲シテ其議ヲ提出

○アラシコトヲ

○四十番 渡邊 洪基 只今番外一番ノ言ヘル如ク本案ノミ他ノ法律ト文例

ヲ異ニスルハ非ナリ是レ些細ナルコトノ如キモ宜ク原案ニ復スヘキナリ因テ之カ修正説ヲ提出ス

○十五番 柴原 和 賛成ス「」ノ字ノ有無其何レニ決スルモ支障ナシ本

官ハ前會ニ於テ之ニ抗論セサリシモ既ニ他ノ法律中有ル所ノ文例ナルトキハ特ニ本案ノミ異例ヲ用フルヲ要セス原案ニ復スルヲ可

トス

○三番 箕作 麟祥 賛成

○八番 伊丹 重賢 賛成

○十一番 榎村 正直 賛成

○十番 大給 恒 賛成

○議長 四十番ノ修正ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス他ニ發議ナクンハ決ヲ取ン四十番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ

起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ四十番ノ修正ニ決ス其他ノ條々ニ對シテハ發議ナクンハ可決ト做シテ次條ニ移ル可シ

書記官 森山 茂 朗讀

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 袋物小間物籠甲時計ノ古物ヲ賣買交換スル者飾屋箔打屋烟管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ

第二十四條^三 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事^{東京府}ヲ

^除縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本第二十一條第二十二條ニ同意者ハ起立セヨ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ決シ此ニ本案ノ第三讀會ヲ終ル

○四十番^{渡邊 洪基} 本案更ニ確定決議會ヲ開カンコトヲ建議ス其理由ニ

アリ抑モ布告案中「本年月日ヨリ施行ス」ト有ルノ施行ハ即チ十七年ニ及フ可キモ之ヲ布告スルハ必ス本年中ナル可シ故ニ此「本」ノ一字ヲ削除セントスル是レ一ナリ又其二ハ第八條ノ修正是レナリ蓋シ是等ノ修正ハ敢テ喋喋ヲ俟タスシテ起立少數ナル可シト思量

○セシニ其然ラスシテ可決セシハ眞ニ意料外ニ出タリ夫レ露店ト路傍トノ區域ノ如キ到底判明ナル能ハサル者ナリ加之該修正ノ如キ之ヲ裡面ヨリ觀レハ苟クモ露店路傍ノ外ニ在テハ其何レニ於テ賣渡讓渡ヲ爲スモ妨ケナキノ見解ヲ生シ提轄上却テ狹隘ヲ來サン番外ニ番ノ若シ然ク決スレハ復命ニ困シムト云ヘルモ大ニ其理アリ是レ之ヲ補ハサル可ラスト爲ス既ニ此ニ理由アルヲ以テ本官ハ本案確定決議會ヲ開クヲ望ム各位ニ在テモ之ニ同意アラシコトヲ請フ

○議長 四十番ノ建議奈何ニ拘ラス第三讀會ニ修正アリシ以上ハ確定決議會ヲ開クヤ否ヤヲ議場ニ問フハ例規ナリ故ニ今之ヲ衆議ニ決セントス

○三番箕作麟祥

本案ニ本年ト有リテ十六年若クハ十七年或ハ何年ニ之ヲ發布スルモ毫モ妨ケ無シ故ニ本官ハ決シテ削除ヲ要セスト信ス又第八條ノ修正ノ如キ四十番ハ之ヲ非視スルモ本官等ハ之ヲ是認セリ是レ畢竟其旨趣ヲ異ニスルカ爲メノミ然ハ則チ確決會ヲ開クハ要用ナラスト思考ス

○十五番柴原和

曾テ下付議案ニ某年某月某日ト有リシニ就テ其期限ノ長短如何ヲ論セシ以來多クハ單ニ年月日トノミヲ記シテ議定ニ付セラル然レトモ本案ノ如ク「本年月日」ト有ルモ行政ノ便宜ニ由ル者ナレハ特ニ確定決議會ヲ開イテ之ヲ修正スルヲ須ヒス因テ本官モ亦之ニ同意スル能ハス

○四十番渡邊洪基

某年某月某日ト言ハスシテ單ニ年月日トノミ記セハ

法案ニ對シテ内閣ハ之ニ本ノ字ヲ入ルルハ妨ケ無キモ苟クモ本院ニ於テ「本年」ト議定上奏セシ案ニ對シ内閣ハ隨意ニ之ヲ改ムルヲ得サル可シ如何

○二十一番黒田清綱

十六年若クハ十七年又ハ之ヲ何年ニ作リテ布告スルモ本年ハ即チ本年ナレハ此文字ニ於テハ不可ナシトス只例ニ依リ速ニ確定決議會ヲ開ク可キヤ否ヤノ決ヲ取ンコトヲ望ム

○番二番黒田綱彦

本案下付アリシハ實ニ數月前ニ係ル當時内閣ノ計畫ニ於テハ本年十二月一日マテニ之ヲ施行スルノ見込ナリシモ本日は既ニ十二月二十二日ニシテ年内僅ニ九日ヲ餘スノミ且布告布達施行期限ノ在ル有ルヲ以テ假令ヒ本年月日ト言ヒ又ハ本年十二月三十一日ヨリ施行スト言フモ其實少クモ半月許ノ猶豫ヲ與フルニ

非サレハ實行スル能ハス然ルニ毎ニ年月日トノミ記シテ議定ニ付
スルノ慣例ナルニ本案ニ限り然カセサリシハ即チ行政ノ便利ヲ圖
リタルニ過キサル可シ到底是等ハ何レニ決スルモ内閣ハ其宜キヲ
圖リ之ヲ斟酌取舍スルハ妨ナカラント思惟ス

○外番一番 水本 今ニシテ之ヲ説クハ注意ノ足ラサルニ似タルモ此「本」

ノ字ハ全ク謬テ存セシ者ナルヲ以テ各位此意ヲ領センコトヲ望ム

○三番 箕作 内閣委員ニシテ之ヲ誤謬ナリト明言セル上ハ已ムヲ得

サルモ本官ハ本年ト有ルモ毫モ障碍ナシト考フルナリ

○四十番 渡邊 番外一番ハ今ニシテ之ヲ誤謬ト云フモ今日下付ノ議

案ヲ今日ニ議スル如クンハ或ハ然ラン苟クモ數月前ノ下付ニ係ル

議案ニシテ今ニ至リ誤謬ナリト言フハ其辨明既ニ晚シ若シ夫レ本

ノ字ノ有無ハ何レニ決スルモ強テ碍ナシトスルモ向來斯ノ如キ例

規ヲ開クノ恐レ有ルヲ以テ本官ハ之ヲ誤謬トハ認ル能ハサルナリ

○議長 内閣委員ニシテ誤謬ト明言セル上ハ之ヲ誤謬ト做スノ外亦

已ムヲ得サル可キモ四十番ノ論スル如ク他日ニ關係アルヲ以テ之

ヲ誤謬ト做スヤ否ヤノ決ヲ取ン誤謬ト做スニ同意者ハ起立セヨ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ本ノ字ハ誤謬ナラストス他ニ發議ナクンハ

第三讀會ノ決議ヲ以テ確定決議會ト做ス可キヤ否ヤノ決ヲ取ン即

チ之ヲ確定決議會ト做スニ同意者ハ起立セヨ

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ第三讀會ノ決議ヲ確定決議ト做スニ決ス本

案ノ會議ハ全ク此ニ了ル修正ノ理由ヲ具シテ例ニ遵ヒ上奏セン散
會セヨ

午後第四時三十二分閉場

○議案ノ審議ハ先づ第一號議案ニ付テハ、
○議案ノ審議ハ先づ第一號議案ニ付テハ、
○議案ノ審議ハ先づ第一號議案ニ付テハ、
○議案ノ審議ハ先づ第一號議案ニ付テハ、
○議案ノ審議ハ先づ第一號議案ニ付テハ、
○議案ノ審議ハ先づ第一號議案ニ付テハ、
○議案ノ審議ハ先づ第一號議案ニ付テハ、
○議案ノ審議ハ先づ第一號議案ニ付テハ、
○議案ノ審議ハ先づ第一號議案ニ付テハ、
○議案ノ審議ハ先づ第一號議案ニ付テハ、

元老院會議筆記 明治十六年十二月八日

禁傍聽

○第四百十七號議案 酢造營業者第一讀會 第四百十五號議案 第三讀會ヲ畢ルノ後ニ開會

ス

議長 佐野 常民

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 二番 | 細川潤次郎 |
| 四番 | 野村 素介 |
| 七番 | 鍋島 直彬 |
| 八番 | 伊丹 重賢 |
| 九番 | 東久世通禧 |
| 十一番 | 榎村 正直 |

- 十三番 西村 貞陽
- 十五番 柴原 和
- 十九番 上杉 茂憲
- 二十七番 河田 景與
- 二十八番 大久保一翁
- 二十九番 渡邊 清
- 三十番 伊集院兼寛
- 三十一番 林 友幸
- 三十四番 福原 實
- 三十六番 神田 孝平
- 三十七番 田中 芳男

内閣委員番外一番 参事院議官山尾 庸三

○議長 今ヨリ第四百十七號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ
 第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未濟ノ酒類

ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徴ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

○番一 番山尾 本案ハ別ニ理由ヲ細陳セサルモ一讀以テ瞭知スルヲ得ン然レトモ聊カ其梗概ヲ述ンニ島根縣鳥取縣長野縣廣島縣等ノ各地方特ニ因伯二州ノ如キハ從來先ツ酒ヲ釀シ而ル後ニ之ヲ酢ト爲スノ慣習タリ近時酒造稅ノ増加シタルヨリ酢造營業ノ名義ヲ以テ隱ニ酒ヲ造リ其店頭ニ酒類小賣營業ノ標牌ヲ掲クル等ノ弊ヲ生

シ廣島縣ヲ尤モ甚シトス故ニ其提警方法ヲ設ケサル可ラス凡ソ酢母ニ供スル酒類ヲ造ル者ト雖モ皆必ス酒造稅則ニ準據セシムルヲ要ス然レトモ若シ酒造稅則ノ全部ニ準據セシメンニハ從來清酒ヲ釀シテ酢ト爲ス者ハ其業ヲ廢セサルヲ得ス蓋シ酒造稅則ニ於テ清酒ハ百石以上ヲ釀造スルニ非サレハ准許ヲ與ヘス又其地方ノ同業者五人以上ノ連印ヲ以テ請願スルヲ要スル等ノコト有レハ到底酢造營業者ヲ酒造營業者ニ同視スルヲ得サルナリ因テ本案ノ如ク酒造稅則中第三條ノ免許稅及ヒ第四條ノ第二項第三項ヲ除キ其他ハ總テ此稅則ニ準據セシムル特別法ヲ設ケ以テ酢造營業者ニ便シ併セテ清酒密賣ノ弊患ヲ防カントス

○十五番 柴原 番外一番ノ說明ヲ聽キ以テ本案ノ大體ヲ贊成シ聊カ

二個ノ疑點ヲ質サン其第一疑點ヲ擧レハ本案ハ第一項ニ明言スル如ク酒造稅則中第三條ノ免許稅及ヒ第四條ノ第二項第三項ヲ除キ其他ハ總テ此稅則ニ準據セシムルコトト思惟ス然ルニ酒造稅則ト權衡ノ合セサル有リ酒造稅則第三十一條ニ酒類石數ノ檢査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徵シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシト言ヘルニ本案第二項ニハ「第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徵ス」ト言ヘリ其三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處スルハ酒造稅則第三十六條ニ當ルナレハ稍ヤ權衡ノ平準ヲ得ルモ第三十一

條ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スルコトヲ除ケルハ如何ン又其第二ノ疑點ヲ擧レハ酵母ニ供スル酒類ヲ造ル者ニ三拾圓ノ免許稅ヲ課スルハ過重ナルヲ以テ其之ヲ課セサルハ可ナレトモ第三項ニ示ス如ク造酢既成ノ後ニ管轄廳ニ届出ヲ爲スノミニシテ免許鑑札料ヲ納メシメサルハ如何ン彼ノ自家用料ノ酒類ニスラ製造免許鑑札料金八十錢ヲ納メシムルニ本案ハ酒造稅則第三條ノ免許稅ヲ除ケルヨリシテ併セテ免許鑑札料ヲモ收メサル乎請フ之カ說明ヲ與ヘヨ

○番一 山尾
外 庸三

十五番ニ請フ第一ノ質問ヲ再陳センコトヲ

○十五番 柴原
和

酵母ニ供スル酒類ヲ造ルニ酒造稅則ニ準據セシムル

以上ハ其處罰ノ權衡ノ如キ酒造者ト同ウセサル可ラス酒造稅則第

三十一條ニ酒類石數ノ検査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシト言ヒ酢造營業者ニ對シテハ免許稅ヲ除クモ造石稅ハ酒造營業者ト同シク一石ニ四圓ヲ課スルヲ以テ其三倍ノ金額ヲ科スレハ權衡其當ヲ得ルモ今之ヲ除カハ輕重宜キヲ失スルニ似タリ如何ン

○外一番山尾 十五番ノ質問ノ意ヲ察スルニ造石稅ヲ徵セサルヲ故ニ權衡平準ヲ得スト言フ者ノ如シ然レトモ本案ハ造石稅ヲ徵セサルニ非ス故ニ其第二問ニ答ヘハ此第一問ハ自ラ冰釋スルヲ得ン抑モ本案ハ免許稅ヲ徵セサルモ造石稅ハ之ヲ徵ス蓋シ此免許稅ノ事ニ關スル内閣ノ意見ニ以爲ラク酒造營業ノ免許稅ヲ酢造營業者ニ

課スルハ過重ニ失セン彼レ其酒ヲ造ルモ之ヲ販賣スルヲ得サル者ナレハナリト遂ニ免許稅ヲ除クコトニ決シタリ但タ造石稅ハ他ヨリ酵母ヲ買收スルモ四圓ノ造石稅ヲ課シタル者ヲ買收スルナレハ之ヲ納メシムルヲ當然ナリトス因テ本案第一項ニ明記スル如ク第三條ノ免許稅及ヒ第四條ノ第二項第三項ヲ除クノ外ハ總テ酒造稅則ニ準據セシムル者ト定メタルナリ

○十五番柴原和 本官ノ訥辯ナル爲メニ質問ノ趣意ヲ徹底セシムルヲ得サリシナラン本官モ免許稅ヲ除ケルコトハ之ヲ知ル唯其造石稅ノコトヲ解シ得サルノミ酒造稅則第三十一條ト本案第二項ト權衡平準ヲ得タリトセンニ本案ニハ附加刑ノ如ク現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徴スト言ヘルニ酒造稅則第

三十一條ノ如ク其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スルコト無キハ權衡其當ヲ得サルニ疑ヒ有ルナリ又第二問ハ説明ヲ得テ領解シタルモ彼ノ製造高一石ヲ超ルヲ得サル自家用料ニ供スル酒類スラ鑑札料金八十錢ヲ課スルニ酢造營業者ニハ鑑札料ヲモ課セサルカ再ヒ之カ辨明ヲ請フ

○外番一番山尾庸三更ニ答辨ヲ爲サン本案ニハ酒造稅則第三十一條ノ如ク酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スルコト無キハ如何ト質問スレトモ本案ハ酒類ヲ販賣スルト檢査未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ造ルトヲ許サス若シ之ヲ犯ストキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收シ其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徵セハ充分ナリト信シ敢テ酒造稅則第三十一條トノ平準ヲ取ラ

サルナリ又其自家用料ニ供スル酒類スラ鑑札料ヲ課スルニ酢造營業者ニ之ヲ課セサルハ如何ト論スレトモ酢造營業者モ管轄廳ニ願出届出ヲ爲シ檢査ヲ受ル等ハ總テ酒造稅則ニ準據セシメ只其免許稅三十圓ヲ課スルト百石以上云云及ヒ五人以上連印云云トヲ除クノミ若シ此答辨ニシテ尙ホ分明ナラストセハ更ニ其間ヲ待チ隨テ以テ之ニ答フ可キナリ

出席

番外二番參事院議官補小池 靖一

○四十番渡邊洪基本官ハ本案ヲ完備ナル法案ナリト認ム酒造稅則中第三條ノ免許稅及ヒ第四條ノ第二項第三項ヲ除キ其他ハ總テ此稅則ニ準據セシムル如キハ最モ宜キヲ得タル者ト信ス酒造稅則第一條ニ凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造

場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシト言ヘリ故ニ酢造業者ト雖モ鑑札ヲ下付スルハ論ヲ待タス又其鑑札料ハ自家用料ニ供スル者スラ金八十錢ヲ納メシムルナレハ本案ニ之レ無キハ權衡ノ平準ヲ得スト論スル有レトモ是レ決シテ然ラス酒造業者ナレハ一石ニ四圓ノ造石稅ヲ納ム可キニ自家用料ニ供スル者ニハ特別ニ寬假シ鑑札料トシテ其五分ノ一即チ八十錢ヲ納メシムルニ在リ本案ハ酢母ニ供スル酒類ヲ造ル者ニシテ酒造業者ト同シク造石稅一石ニ金四圓ヲ納メシムルニ因リ鑑札料ノ如キハ之ヲ納メシメサルヲ適當ナリトス又其酒造稅則ニハ造石稅三倍ノ金額ヲ科スルニ本案ニ其罰ナキハ輕重當ヲ失スト論スル有レトモ酒造稅則第二十三條第二項ニ「検査既濟ノ酒類へ検査未濟ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス」ト

言ヒ酢ハ検査既濟ノ者ニハ非サレトモ第二十三條第二項ト同一性質ニ係ル者トス附則第五條ニ「自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス」ト言ヒ而シテ其罰ハ附則第八條ニ「三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ」ト言ヘルニ恰當シ皆是レ精密ニ調査シタルヲ以テ權衡其宜キヲ得タリ且夫レ第三項ニ「酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ」ト言ヘルハ其成果ヲ明カニスルカ爲メナラシ實ニ無瑕ノ法案ト謂フ可シ因テ聊カ本案ヲ賛成スル理由ヲ陳ス

○十一番 棋村 正直

本官モ内閣委員ニ四點ノ質問ヲ要スル有リ其一酢造業者ノ酢母ニ供スル酒類ヲ造ルニハ酒造稅則附則第一條ノ鑑札

料ヲ納ムルヲ要セサル乎其二酒造稅則第十二條三自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ檢査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシト言ヘリ酢造營業者ノ免許鑑札ヲ受ルトキハ第十二條ニ依據シテ其他ノ酒類ヲ造ルニモ造石稅ノミヲ納メ附則第一條ノ鑑札料ヲ納メサル乎其三酒造稅則第二十一條三酢及ヒ酒もトヲ販賣スルヲ許サス云云ト言ヘリ是レ本案ニ某條某項ヲ除クト言ヘル條項ノ中ニ掲ケサルモ妨ケ無キ乎其四酒造稅則第二十九條ニ「免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及製造諸器械トモ沒收シ免許稅額ニ倍ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵スヘシト言ヘリ酢造營業者ニハ營業

免許稅ヲ課セサルニ犯則ノ時ニ於テ免許稅額ニ倍ノ金額ヲ科スルトハ果シテ如何スルヤ又第三十條ニ「免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許料相當ノ金額ヲ科スヘシト言ヘリ既ニ免許稅ヲ課セサルニ免許料相當ノ金額ヲ科スルトハ果シテ如何スルヤ此四點ヲ辨明センコトヲ請フ

○番二番小池
靖一

答辨セン第一問ノ鑑札料云云ノコトハ別ニ取締法ヲ

設ケントス故ニ酒造稅則ニ準據セシムルノミニシテ鑑札ノ如キモ附則第一條ニ準據セシムルニ非ス唯酒ヲ酢母ニ供シテ酢ヲ造ルコトヲ掲記セル鑑札ヲ下付スルノミ第二問ノ酒造稅則第十二條云云ノコトハ酒造稅則ニ準據シ造石數ニ應シ清酒ナレハ一石ニ四圓ヲ

納メシム第三問ノ酒造稅則第二十一條云云ノコトハ元來酒造營業者ノ爲メニ設ケタル者ナレハ酢造營業者ニ對シテハ毫モ効力ヲ存スル無シ因テ本案ニ第二十一條ヲ除クコトヲ掲載セサルモ本ト分明ナル可シ第四問ノ第二十九條云云ノコトハ既ニ免許稅ヲ課セサル以上ハ處罰ス可キ無シ酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ造ル有ラハ本案第二項ニ據テ處罰ス但タ鑑札ヲ借受タル者ハ酒造稅則第二十九條ニ據テ處罰スルハ論ヲ待タス他ハ第一項ニ明記セルカ如シ

○十一番榎村正直領會ス然レトモ酒造稅則第三十條ニ免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシト言ヘリ然レハ則チ酢

造營業ノ免許鑑札ヲ受ケ之ヲ他人ニ貸與セシ者ハ如何ナル罰責ヲ受ク可キヤ本案第一項ニ該稅則ニ準據スヘシト言ヘハ第三十條ニ據テ處分ス可キモ第三十條ニハ免許稅ノコト無シ免許稅ノコト無キニ免許稅ニ相當セル金額ヲ科スルハ得テ爲ス可キノ事ニ非サラン内閣委員如何カ之カ辨解ヲ與フル耶

○番二番小池靖一說ノ如ク第三十條ニ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシト言ヒ而シテ本案ニ其罰例無ケレトモ原來本案ハ鑑札ヲ下付シテ鑑札料ヲ納メシムルヲ目的ト爲スニ非サルヲ以テ鑑札ヲ借受スル者ハ之レ無ラン酒造營業者ニ在テハ免許稅ヲ納メサルヲ得サルモ酢造營業者ニ在テハ免許稅并ニ鑑札料ヲ納メスシテ可ナリ故ニ若シ鑑札ヲ貸與スル有ルモ第三十條ノ罰例ハ之ヲ貸與セル者ニ施サ

スシテ借受セル者ニ施スノミ

○十五番柴原和

本官ノ本案ヲ賛成スル所以ハ酒造税則附則第三條ニ

「自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高一石二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合

算ヲ超ユルヲ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシト言

ヘルニ因リ只唯酢母ニ供スル爲メニ僅僅二石若クハ三石ノ酒類ヲ

造ル者ヲモ酒造營業者ト同一ノ順叙ヲ踐マシムルノ過重ニ失スル

カ故ニ本案ヲ設ケ以テ酢造營業者ニ便益ヲ與フルニ在リト信スレ

ハナリ四十番ハ内閣委員ノ代理者タル如キ説明ヲ爲シ以テ本案ヲ

無瑕完全ノ者ナリト言ヒシモ本官ハ之ヲ四十番ノ一己ノ私言ト看

做シ更ニ内閣委員ニ質問セン本官ノ疑點ハ先キニ十一番ヨリ内閣

委員ニ質問シタルト同一事ニシテ本案第一項ニハ酒造税則中ノ某

條某項ヲ除キ其他ハ此税則ニ準據ス可キコトヲ示セリ然ラハ則チ
免許鑑札ハ之ヲ下付スルナラン而シテ其鑑札料ヲ納メシメサルハ
稍ヤ權衡ヲ失スルニ非スヤ彼ノ酒造税ノ如キ自家用料ノ酒類ヲ造
ル者ニスラ八十錢ノ鑑札料ヲ納メシムルニ獨リ酢造營業者ニ限り
造石税ノミヲ納メシムルハ何ソヤ又四十番ハ本案第二項ニ關シ酒
造税則附則第八條ヲ引キテ權衡ノ平準ヲ得タリト辨シタレトモ本
官ハ以テ然ラスト爲ス酒造税則第三十六條ニ「三圓以上三十圓以
下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ
追徵ス」ト言ヘル者却テ本案第二項ト合セリ何ソ附則第八條ヲ引
ヲ要セン且ヤ酒造税則第三十一條ニ「造酒石數ノ検査ヲ受ケスシ
テ賣捌キタル時ハ其代價ヲ追徵シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税

三倍ノ金額ヲ科スヘシト言ヘルニ本案ニハ造石税三倍ノ金額ヲ科セサルハ何ノ故ニ此ノ如ク寛恕スルヤ又只今番外二番ノ十一番ニ答ル所ヲ聞キ益疑團ヲ生セリ苟シ酢造營業者ニ免許鑑札ヲ下付セサレハ已ム若シ之ヲ下付ストナラハ酒造税則第三十條ニ免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許税相當ノ金額ヲ科スヘシト言ヒ第二十九條ニハ「免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許税額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシト言ヘルヲ以テ其酒類ヲ販賣セル者ハ如何ニ之ヲ處分ス可キカ番外二

番ノ答辨ニ依レハ酒造税則第二十九條及ヒ第三十條ハ酢造營業者ニハ之ヲ施行セサルヤノ感ヲ起セリ請フ之ヲ説明セヨ

○番二番小池外

過刻ノ答辨ハ恐クハ未タ盡ササル所アリシナラン抑

モ本案第一項ニ從ヒ酒類ヲ造ル者ニハ免許鑑札ヲ下付シ而シテ其鑑札料ヲ課收セサルナリ若シ免許鑑札ヲ受ケスシテ酵母ニ供スル酒類ヲ造ル者アレハ酒造税則中免許鑑札ヲ受ケスシテ釀造スル者ニ準シテ之ヲ處分ス又本案第二項ノ罰例ニ關シ酒造税則附則ノ自家用料云々ノ者ト權衡ノ平準ヲ得スト說ケルモ本案第二項ノ三圓以上三拾圓以下ノ罰金云々ノコトハ酒造税則第三十六條ニ據レル者ニシテ附則ニ據レルニ非ス況シテ權衡ノ得失如何ハ人人ノ見ル所ヲ異ニスレハ容易ニ判定ヲ下ス能ハサル可キヲヤ若シ權衡全ク

平準ヲ得サレハ或ハ修正ヲ加フルモ可ナレトモ前陳ノ如ク三圓以上三十圓以下ノ罰金云云ノコトハ全ク酒造稅則附則ニ據レルニ非サレハ強テ修正ヲ要セサル可シ

○十五番 柴原和 答辨ヲ得テ領會セリ第二讀會ニ至ラハ或ハ修正說ヲ提出スル有ル可シ但シ修正ノ爲メニ考案ヲ要スルニ因リ本日直ニ第二讀會ヲ連開スルヲ須ヒス成規ノ日數ヲ經テ開會センコトヲ望ム併セテ告ク酒造稅則附則第八條云云ノコトハ本官カ四十番ノ本案第二項ト附則第八條ト權衡ヲ得タリト云ヘル說ニ對シテ否ナ却テ酒造稅則第三十六條ニ合セリ何ソ附則第八條ヲ引クヲ要セン唯其造石稅三倍ノ金額云云ノコトノ本案ニ之レ無キハ權衡ヲ失セリト一辨シタルノミ初ヨリ內閣委員ニ質問シタルニ非ス然ルニ番外

二番ハ四十番ノ說ト本官ノ說トヲ混合シテ辨明セル者ノ如シ本官敢テ番外二番ノ言ヲ咎ムルニハ非レトモ本官ノ所說ノ番外二番ニ誤認セラレタル因テ以テ會議筆記ニ留存センコトヲ恐レ爲メニ聊カ之ヲ辨ス

○議長 若シ他ニ大體ニ關スル發議ナクンハ此ニ第一讀會ヲ畢ン

○九番 東久世通禧 特別ニ建議ス此他ニ幾多ノ下付議案ノ在ル有レハ本

日第二讀會ヲ連開センコトヲ

○議長 本案ハ急施ヲ要スル者タルハ內閣ノ通牒セシ所ニシテ九番ノ建議ノ如ク第二讀會ヲ連開スルヲ要スレトモ修正說ヲ提出スル有ル可キニ因リ其地ヲ與フル爲メニ本日ハ議ヲ此ニ止メン但シ是レ要急ノ議案ナレハ成規ニ拘ラス明後十日即チ月曜日ヲ以テ例刻

ヨリ第二讀會ヲ開カン本日ハ散會セヨ

午前第十一時閉場

○議案 本會ハ前年ノ議案ニ對シテ本年ハ散會ノ旨ヲ示シテ
○議案 本會ハ前年ノ議案ニ對シテ本年ハ散會ノ旨ヲ示シテ
○議案 本會ハ前年ノ議案ニ對シテ本年ハ散會ノ旨ヲ示シテ
○議案 本會ハ前年ノ議案ニ對シテ本年ハ散會ノ旨ヲ示シテ
○議案 本會ハ前年ノ議案ニ對シテ本年ハ散會ノ旨ヲ示シテ
○議案 本會ハ前年ノ議案ニ對シテ本年ハ散會ノ旨ヲ示シテ
○議案 本會ハ前年ノ議案ニ對シテ本年ハ散會ノ旨ヲ示シテ
○議案 本會ハ前年ノ議案ニ對シテ本年ハ散會ノ旨ヲ示シテ
○議案 本會ハ前年ノ議案ニ對シテ本年ハ散會ノ旨ヲ示シテ
○議案 本會ハ前年ノ議案ニ對シテ本年ハ散會ノ旨ヲ示シテ

元老院會議筆記

明治十六年十二月十日

禁傍聽

○第四百十七號議案

醸造業者取締ノ儀

第二第三讀會

議長 佐野 常民

出席議員

- 二番 細川潤次郎
- 三番 箕作麟祥
- 七番 鍋島直彬
- 八番 伊丹重賢
- 九番 東久世通禧
- 十一番 榎村正直
- 十二番 津田白出

十三番 西村 貞陽
 十五番 柴原 五和
 十九番 上杉 茂憲
 二十番 大鳥 圭介
 二十八番 大久保一翁
 三十番 伊集院兼寛
 三十二番 三浦 安
 三十四番 福原 實
 三十五番 本田 親雄
 三十六番 神田 孝平
 三十九番 津田 眞道

午前第十時七分開場

○議長 第四百十七號議案ノ第二讀會ヲ開ク

○七番 鍋島 質問ノ機ニ後レタレトモ内閣委員ニ對シ疑義ヲ質サン

ト欲スル有リ

○議長 七番ニ告ク書記官ノ朗讀ヲ畢レル後ニ發議セヨ本案ハ三項ニ分テルヲ以テ一項毎トニ朗讀セシメテ之ヲ議題ニ付セン

四十番 渡邊 洪基

四十二番 官本 小一

四十三番 田邊 太一

内閣委員 山尾 庸三

参事院議官 小池 靖一

書記官 森山 一朗讀

布告案

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三

條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

○七番 鍋島 質問ノ機ニ後レタレトモ議長ノ許可ヲ得テ内閣委員ニ

質問セント欲ス其疑義タル第一讀會ニ於テ十五番十一番等ノ内閣

委員ニ質問シ内閣委員ノ之ニ答辨シタル者ナレハ事稍ヤ重複ニ屬

スレトモ遂ニ領解スル能ハサルニ因リ已ムヲ得ス質問スルニ在リ

本案ハ第一項ニ明記セル如ク酒造稅則中第三條ノ免許稅及ヒ第四

條ノ第二項第三項ヲ除キ其他ハ總テ此稅則ニ準據セシムルナレハ

免許鑑札ヲ下付スルハ論ヲ俟タサル可キモ而モ其鑑札料ヲ課收セ

サル者ノ如シ抑モ鑑札ヲ下付スルニハ費用ト手數トヲ要スレハ鑑

札料ヲ課收スルモ決シテ不可ナル無シ從來各種營業者ニ鑑札ヲ下

付スルヤ皆其鑑札料ヲ課收スル例ナルニ特リ酢造營業者ニ限り之

ヲ課收セサルハ抑モ何等ノ特典ニ出テ且其何等ノ理由ニ因ル乎請

フ之カ辨明ヲ聞ン

○番二番 小池 七番ノ質問ニ答シ是レ特殊ナル理由ノ存スルニ非ス

酢造營業者ノ如キ僅僅一石若クハ二石ノ酒類ヲ造ル者ニ免許稅ヲ

納メシムルハ過重ニ失ス且ヤ造石稅ヲ納メシムルカ故ニ鑑札料ヲ

納メシメサルモ可ナリト云フニ外ナラサルナリ

出席 井田 井田 井田

○十一番 榎村 第一項ヲ修正セン即チ云云第四條第二項第三項ノ

下ニ第二十一條ノ五字ヲ加フル是ナリ抑モ第二十一條ハ「酢及ヒ酒もどヲ販賣スルヲ許サス但事故アリテ酒もどノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニアラスト」言ヘルヲ以テ或ハ酢造業者ノ爲メニ此條ヲ除クコトヲ明記セサルモ彼レ得テ解ス可シト爲スモ「該稅則ニ準據スヘシ」ト言ヘル以上ハ第二十一條ヲモ除クコトヲ明示セサレハ酢造業者ニシテ酢ヲ販賣スル能ハサルヤノ考想ヲ起サントス又「該稅則」ト言ヘル「稅」ノ字ヲ本ノ字ニ改メ「準據スヘシ」ノ下ニ但免許鑑札ヲ受ルトキ鑑札料金二十錢ヲ納ムヘシノ二十二字ヲ加ヘン蓋シ何レノ營業ヲ問ハス鑑札ヲ下付スルトキハ鑑札料ヲ納メシムルノ例規タルニ本案ニ限り之レ無キハ不妥ヲ免レス且ヤ本案ノ如クナレハ免許鑑札ヲ下付スルト否トヲ

解シ得サレハナリ既ニ鑑札ヲ下付スル以上ハ鑑札料金二十錢ヲ納メシムルヲ當然ナリトス幸ニ此修正ノ成立センコトヲ望ム

○十九番 上杉茂憲 賛成ス大體上ヨリ觀ルトキハ「第四條第二項第三項」ノ

下ニ第二十一條ノ五字ヲ加ルヲ要セサル可キモ之ヲ加レハ益明瞭ナルヲ覺フ又準據スヘシ」ノ下ニ但書ヲ加フルコトモ過刻番外二番ノ七番ニ答ヘタル所ヲ聞クニ別ニ深意ノ存スルニ非サレハ宜ク鑑札料金二十錢ヲ課シ以テ權衡ノ平準ヲ得セシムヘキナリ

○議長 十一番ニ問フ但書ノ文案ハ如何ン

○十一番 榎村正直 但免許鑑札ヲ受ルトキ鑑札料金二十錢ヲ納ムヘシト云フニ在リ

○議長 十一番ノ修正ハ「云云酒造稅則中第三條免許稅第四條第二

○項第三項第二十一條ヲ除クノ外該本則ニ準據スヘシ但免許鑑札ヲ受ルトキ鑑札料金二十錢ヲ納ムヘシト云フニ在リ賛成者アルヲ以

テ問題ト爲ス

○番二番小池

十一番ノ修正説ハ敢テ不可ナル無シト雖モ第二十一

條ノ五字ヲ加ルト否トニ關シ内閣ニ於テ論議セシコトヲ陳ヘ以テ各位ノ參考ニ供セン内閣ニ於テモ十一番ノ説ノ如ク酢造營業者ノ酒造稅則ニ據レハ爲メニ酢ヲ販賣スル能ハサルノ支障ヲ來ストシテ第二十一條ヲ除クコトヲ明示セント要シタルモ酢造營業者ノ其布告ノ出ルニ會ヘハ清酒ヲ以テ酢ヲ造ル能ハサルニ至ラン故ニ酒造營業者ト爲リテ酢ヲ造ラサルヲ得サルノ順叙ナレハ若シ酢造ヲ許シテ其販賣ヲ許ササル如キ是レ宛モ其足ヲ縛シテ歩ヲ促カスト

一般ニシテ萬萬之レ無ル可キノ事タルニ因リ本項中ニ之ヲ掲ルコトヲ止メタリ且若シ第二十一條ヲ除クトキハ唯其酢ノ販賣ヲ禁スルコトヲ解クノミニ止マラスシテ酒母ノ販賣ヲモ禁ス可ラサルニ至ラントスルノ望慮アリ是レ以テ閣議ノ此條ヲ除クコトヲ明記セサル所以ナリ

○十五番柴原和

問題説ヲ賛成ス本官ハ第一讀會ニ當リ本案第一項ニ

指示スル條項ノ外尙ホ準據シ難キ條項アルノミナラス彼此權衡ノ平準ヲ得サル者アルヲ以テ修正ノ考案ヲ要スル爲メニ第二讀會ハ他日ニ讓ル可キヲ陳セシニ幸ニ議長ノ採用スル所ト爲リ本日ヲ以テ第二讀會ヲ開ケリ因テ本項ニ對シ修正説ヲ提出セントセシニ十一番ヨリ現ニ問題ト爲レル修正説ヲ提出シ其文案ハ本官ノ文案ト

僅ニ二三ノ假字用法ヲ異ニスルノミニシテ其趣旨ニ至テハ毫モ相異ナル無シ第二十一條ノ五字ヲ「第四條第二項第三項」ノ下ニ加フ可キハ實ニ十一番ノ說ノ如シ而シテ「該稅則」ノ「稅」ノ字ヲ本ノ字ニ改ムルモ亦宜キヲ得タリトス若シ原案ニ從フトキハ附則ヲモ包含セル者ノ如クナレハナリ又其但書ヲ加フルハ尤モ穩當ニシテ第一讀會ニ陳辨シタル如ク若シ原案ニ從フトキハ免許鑑札ヲ下付スル者ノ如ク又之ヲ下付セサル者ノ如キ疑惑ヲ致サシメントス凡ソ鑑札ハ各種營業者ニ下付スルニ悉ク其鑑札料ヲ課收セサル莫キニ特リ酢造營業者ニ限り之ヲ課收セサルハ何ソヤ前日某議官ノ此事ヲ質問セシニ内閣委員ハ造石稅ヲ納メシムルカ故ニ鑑札料ヲ納メシメサルモ可ナラント答ヘリ是レ世俗ニ所謂差引勘定ヲ爲セル者ノ

如シ鑑札料二十錢ナレハ煙草賣藥等ノ營業鑑札料ト同額ニシテ其權衡宜キヲ得タリトス却テ說ク酒造稅則第二十一條ヲ除クコトヲ明示セサル所以ノ質問ニ對シ番外二番ハ一旦之ヲ除クコトニ立案セシモ後ニ本案ノ如クセリト答辨セリ然レトモ是レ斷然之ヲ除クコトヲ明示スルヲ可ナリトス何トナレハ十三年九月第四十號布告ニハ「酢及ヒ酒もどヲ販賣スルヲ許サス」ト言ヒシニ十五年三月第十七號布告ヲ以テ「但事故アリテ酒もどノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡ス」ハ此限ニアラス」トノ但書ヲ追加セリ抑モ酢造營業者ニ酢及ヒ酒母ヲ販賣スルコトヲ禁スルハ當ニ無用ナルノミナラス却テ大ニ支障アリ又其但書ノ「酒もどノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡ス云云」ノコトモ酢造營業者ニ對シ

テハ不要ナリトス聊カ現問題ヲ賛成スル理由ヲ述ルコト爾リ

○三十六番 神田 孝平

本官ハ現問題ニ對シ賛成スル點アリ又同意セサル

點アリ第一ノ修正タル酒造稅則第二十一條ヲ除クコトヲ明記スルハ恐クハ事ニ支障スル有ラン何トナレハ若シ修正說ノ如クセハ酢造營業者ニシテ酒母ヲ販賣スルヲ得ル者ニ似レハナリ十五番ハ之ヲ除クコトヲ指示シテ可ナリト辨スレトモ本案ハ酒類ヲ造リテ酢母ニ供スル者ノ爲メニ設クル制規ナレハ先ツ酒母ヲ造リテ酒ヲ造リ而ル後ニ酢ヲ造ルナレハ酒母ノ販賣ヲ禁スル條則ヲ除クトキハ自由ニ酒母ヲ販賣スルニ至ラントス酒造稅則ニ酒母ノ販賣ヲ禁スルコトヲ明揭シタルハ蓋シ弊害アルニ由リテ然ルナラン然ルニ修正說ノ如クセハ酒母ノ販賣ハ禁セサル者ト爲ル故ニ賛成スル能ハ

サルナリ他ノ二點ノ修正即チ稅則ヲ本則ト改メ及ヒ但書ヲ加ヘテ二十錢ノ鑑札料ヲ課收スルコトハ本官モ同感ナリ他ノ稅則ニモ鑑札ヲ下付スレハ必ス其料ヲ納メシムルヲ例規ト爲セハナリ彼ノ酒造營業者ノ如キ免許稅重キカ故ニ鑑札料ヲ課收セサルヨリシテ本案モ造石稅ヲ課收スル爲メニ鑑札料ヲ免除スルヤヲ知ラサレトモ此ノ如キハ他ニ其例アルヲ聞カス宜ク之ヲ納メシムヘキナリ且其金額モ二十錢ヲ適當ナリトス是ノ故ニ本官ハ前一點ニハ同意セサルモ後二點ニハ賛成スルナリ

○四十番 渡邊 洪基

本官ハ原案ヲ可トシ現問題ニハ同意セス其第二十一

條ノ五字ヲ加フルノ不是ナルハ三十六番ノ辨駁セル者ノ如シ又鑑札料ノコトモ元來酢造營業者ノ鑑札料ハ營業稅若クハ地方稅トシ

テ課收セシナラン既ニ酢造營業ノ爲メニ鑑札ヲ受タルニ更ニ酒ヲ
 酢ニ造ル爲メニ鑑札料ヲ課收スル如キハ本官未タ曾テ此例アルヲ
 聞カス抑モ酢ヲ造ル爲メニ先ツ酒ヲ造ル者ニ其鑑札料ヲ辨納セシ
 ムルハ穩當ナラス蓋シ其酒ヲ造ルモ全ク是レ酢ヲ造ル爲メニスル
 ナレハ毫モ酒造營業ニ關係スル無シ然レトモ酒造稅則ニ影響ヲ及
 ホスヨリシテ本案ヲ發出スルニ在レハ假令酒造稅則第一條ニ免許
 鑑札ヲ受ルコト有リトスルモ素ヨリ其輕重ヲ異ニス故ニ斯ノ如ク
 修正スルハ煩細ニ涉ルト謂ハサルヲ得ス若シ然ク決定シタランニ
 ハ稅ヲ課セル酒ヲ以テ酢ヲ造ルハ損益相償ハサル可キニ因リ終ニ
 酢造營業者ヲ絶ツニ至ラン事實此ノ如クナレハ本官ハ現問題ニ同
 意セサルナリ

○十一番 榎村
正直

四十番ハ問題說ニ反對シテ鑑札料ヲ辨納セシムルヲ
 要セスト言フモ元來酢ヲ造ル爲メニ酒ヲ造ル者ニ係リ酢ヲ造ル者
 悉ク酒造營業者ニ非ス只是レ酵母ニ供スル酒ヲ造ルニ在レハ隨テ
 其鑑札料ヲ課收セサル可ラス内閣委員モ第一讀會ニ當リ鑑札ヲ下
 付スト明言セリ既ニ之ヲ下付スル以上ハ其料ヲ辨納セシムルヲ適
 當ナリトス十五番モ辨セシ如ク若シ原案ニ決セハ鑑札ヲ下付スル
 ヤ否ヤヲ瞭解スル能ハサルニ至ラン又三十六番ハ第二十一條ヲ除
 クコトヲ明記スレハ酒母ヲ販賣スルニ至ル可シト云フモ本案第二
 項ニ罰例ノ明文アレハ酢造營業者ニシテ酒母ヲ販賣スルヲ得サル
 ヤ明白ナリ仮令之ヲ販賣スル有リト看ルモ第二十一條ヲ除キテ何
 ノ支障アラン敢テ請フ問題說ノ如ク決定センコトヲ

○十五番柴原和

本官モ三十六番ニ對シ第二十一條云云ノ事ヲ辨セン
トセシニ十一番ヨリ之ヲ駁セルヲ以テ復タ本官ノ喋辨ヲ要セサレ
トモ元來酢ハ酒ノ腐敗セル者ヲ以テ之ヲ造ルナレハ僅ニ三石若ク
ハ五石ノ酢ヲ造ル爲メニ之カ酒母ヲ造ル無カル可シ況ンヤ酒母ヲ
販賣スル者ヲヤ然ルヲ若シ第二十一條ヲ除カサレハ酢造者ニシテ
酢ヲ販賣スル能ハサラシメントス今試ミニ番外二番ノ舉タル譬喩
ヲ借テ之ヲ反駁スレハ是レ足ヲ縛シテ歩ヲ促カスニ異ナラス故ニ
必ス之ヲ除クコトヲ明示セサル可ラス然リ而シテ若シ酢造營業者
ノ酒母ヲ販賣スル有レハ釐麴營業稅則若クハ本案第二項ヲ施シテ
以テ充分ニ提警ヲ爲スニ足ル可キナリ

○三十六番神田季平

本官ノ駁說ニ對スル反駁說アレトモ若シ修正說ノ

如ク第二十一條ヲ除クトキハ酒母販賣ノ禁止ハ自ラ放解ニ付スル
者ト爲ルナリ本案第二項ヲ觀ルニ酢母ニ供スル酒類ヲ造ル者ニシ
テ其酒類ヲ販賣シ若クハ檢査未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ造ル事犯ニ對
スル罰例アレトモ酒母販賣ノ罰例アラス蓋シ酢造營業者ニ酢ヲ販
賣スルコトヲ許ササルハ矛盾ノ甚キカ爲メニ此條ヲ除ク可シト云
フニハ幾分カ同意セサルニ非サレトモ一方ニ支障ノ生スルヲ奈何
セン一ノ支障ヲ除ク爲メニ他ノ支障ヲ招クハ不可ナリ故ニ本官ハ
番外二番ノ辨明ニ安ンシ第二十一條ヲ存スルヲ要ス但別ニ好修正
說ノ在ル有ラハ輒チ之ニ同意センノミ

○十一番榎村正直

三十六番ハ酒母ヲ含蓄セスト言フモ本官ハ酒類ト言
ヘハ之ヲ含蓄セリト信ス若シ三十六番ノ別ニ好修正ヲ提出スル有

ヲハ或ハ之ニ同意センノミ然レトモ到底第一項ニハ酒元云云ノコトヲ掲クル能ハサルニ因リ問題説ノ如ク「第四條第二項第三項第二十一條ヲ除クノ外」ト爲シ而シテ本案第二項ノ議題ニ上ホルニ至リ「酒類ヲ販賣シ」ト言フヲ「酒類及ヒ酒元ヲ販賣シ」ト爲サハ三十六番ノ里慮モ冰消スルヲ得ン故ヲ以テ本項幸ニ問題ノ如ク決定セハ第二項ニ「酒元」ノ文字ヲ加フル修正説ヲ提出セントス敢テ望ム三十六番ノ此意ヲ領シテ現問題ニ賛成センコトヲ

○九番 東久世
通禧

本官ハ十一番ノ但書ヲ加ル説ハ之ヲ賛成ス因テ建議ス本項ト但書トヲ區別シテ取決センコトヲ

○外 山尾
庸三

第二十一條ヲ除クハ不可ナリ蓋シ若シ之ヲ除クトキハ酒母ヲ販賣スル弊害ヲ生シ爲メニ別ニ之カ取締方法ノ施設ヲ要

スルニ至ラン又第二項ハ同業者ノ間ニ於ケル關係ヲ示ス者ナレハ復タ弊害ヲ生スル無カル可シ請フ各位ノ此點ニ注意センコトヲ

○議長 九番ハ「準據スヘシ」マテト但以下トヲ區別シテ取決ス可キヲ建議セリ此但書ハ別項ニ掲クルニ非スシテ連書スルナレトモ建議ノ如ク之ヲ二分スルトキハ大ニ議決ノ混雜ヲ防ク可シト思惟ス因テ之ヲ衆議ニ問ハン九番ノ建議ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ二分シテ取決スルニ決ス

○三十九番 津田
眞道

本官ハ原案ヲ可トシ問題説ヲ不可トス論者ハ第二十一條ヲ除クコトヲ明示セント云フモ内閣委員モ云フ如ク自由ニ酒母ヲ販賣スル弊害ヲ生スルニ至ラン又鑑札料云云ノコトモ無用

ニ屬ス政府スラ之ヲ課收スルヲ要セスト言フニ本院何ソ課收ス可
シト言フヲ要セン

○議長 前段ノ決ヲ取シ十一番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ
起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ十一番ノ前段ノ修正説ハ消滅ス

○十五番柴原和第二十一條ノ五字ヲ加フル修正説ノ消滅シタルハ已

ムヲ得サレトモ「稅則」ヲ本則トスル修正説ヲ併セテ消滅シタルハ

遺憾ナリ三十九番ハ原案ヲ可トスト言フ十三年九月第四十號布告

ニハ「今般酒造稅則別冊」ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ

酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事」ト言ヒ次ニ酒造稅則

第一章第一條云云ト掲ケ末條即チ第三十四條ニ「前條條ニ明記ス

ルモノノ外云云罰金ヲ科スヘシ」ト言ヒ而シテ其次ニ「附則、酒造營
業者ニアラスシテ自家飲料ノタメ酒類ヲ製造スルモノハ云云」ト
言ヘリ爾後十五年十二月第六十一號布告ヲ以テ十三年九月第四十
號布告ヲ改正追加セシトキニモ第三十八條ノ次ニ「酒造稅則附則」
ヲ置キ舊則ニ自家飲料ト言ヘルヲ自家用料ト改メ其事ニ關シテ九
條ヲ設ケタリ論者或ハ別ニ附則ノ在ル有レハ本則ト改ムルヲ要セ
スト云ハンモ附則第三條ノ如キハ「云云若シ之ヲ超ル時ハ總テ本
則ニ從フヘシ」ト言ヘリ然ルニ本案ノ如ク「該稅則ニ準據スヘシ」ト
言フトキハ附則第一條ノ「自家用料」ノ酒類ヲ製造スル者ハ管廳ヘ
届出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ」ト言ヘル如
キ點ニマテ關係ヲ及ホスニ至ル可シト思惟シ第一讀會ニ於テ其理

由ヲ辨セシニ内閣委員ハ附則ニハ關係スル無シト答ヘリ然レトモ
原案ニ從ヘハ附則ヲモ包括スルヤノ看アルヲ以テ本則ト改ム可シ
ト思惟シタルニ幸ニ十一番ノ修正説ヲ提出スル有リ軌子之ニ賛成
ヲ表セシモ其消滅ニ歸シタルハ實ニ遺憾ナリトス因テ爰ニ本官ハ
「稅則」ヲ本則ト改ル修正説ヲ提出ス

○十一番 榎村 賛成

○議長 十五番ノ「稅則」ヲ本則ト改ル修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト
爲ス

○三番 箕作 麟祥 本官ハ第一讀會ニハ他ノ公務ノ爲メニ闕席シタルヲ以
テ如何ナル質問答辨アリタルヤヲ知ラサレトモ現問題ニハ同意ス
ル能ハス發議者ハ「該稅則ニ準據スヘシ」ト言フトキハ附則ヲモ包

含セル者ノ如シト云フモ本官ハ以テ然ラスト爲ス何トナレハ附則
ハ專ラ自家用料ノコトニ關シ毫モ酒造營業者ニ關セサレハ酵母ニ
供スル酒類ヲ造ル酢造營業者ノ附則ニ準據スル能ハサルヤ明白ナ
リ太政大臣ノ通牒文ニ「酢造營業者取締ノ儀」ト言ヘルヲ見テモ瞭
解ス可キナリ故ニ本官ハ現問題ニ同意スル能ハス
○議長 十五番ノ「稅則」ヲ本則トスル修正ノ決ヲ取シ之ヲ可トスル
者ハ起立セヨ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ十五番ノ修正説ハ消滅ス原案ヲ可トスル者
ハ起立セヨ

起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス因テ但免許鑑札ヲ受ルトキ鑑札
料金二十錢ヲ納ムヘシノ二十二字ヲ第一項ノ末ニ加フル十一番ノ
修正ノ決ヲ取シ

○七番 鍋島直彬 本官ハ只今ノ取決ヲ但書ヲ加ル修正説ノ取決ナリト誤
認シ以テ起立セサリシカ本文ノ取決ナレハ起立セント欲シタルナ
リ

○議長 七番ニ告ク税則ヲ本則ト爲ス修正ハ少數ナルヲ以テ消滅シ
原案ノ決ヲ取リシニ多數ナルヲ以テ原案ニ決シ而シテ現ニ問題ト
爲レルハ但書ヲ第一項ノ末ニ加フル者はナリ

○九番 東久世通禧 本官モ原案ヲ是認シタレトモ誤テ起立セサリシ
○議長 可ナリ多數ナリシヲ以テ事ニ害スル無シ今ヤ但書ヲ加フル

修正ノ問題ニ在ルナレハ各位意見アラハ發議セヨ

○三十五番 本田親雄 本官ハ問題ニ同意セス蓋シ敢テ但書ヲ加フルヲ要
セスト信スレハナリ

○三十二番 三浦安 現ニ問題ト爲レル修正説ハ至當ナル如クナルモ元
來酒造若クハ酢造ニ關シ鑑札ヲ下付スルニ非ス酢造營業者カ酢ヲ
造ル爲メニ酒母ヲ濫賣スル弊害ヲ防ケハ足ル者ニシテ其原由タル

他ノ營業ノ鑑札ト性質ヲ異ニス故ニ本官ハ問題ニ同意スル能ハス
○四十二番 宮本小一 内閣委員ノ説ニ據レハ鑑札ヲ下付スト云ヘリ果シ
テ然ルヤ其事ヲ掲記セサレハ理事者ハ其處分ニ疑惑セン故ニ但書
ヲ加ヘテ明示スルヲ可トス既ニ鑑札ヲ下付スル以上ハ各種營業ノ
鑑札モ概子手數料ヲ徴スルニ因リ之ト齊一ナラシムルヲ要ス況シ

ヤ二十錢ヲ徴スルモ營業者ノ痛苦ヲ爲スニ足ラサルヲヤ

○八番 伊丹重賢

某議官ハ鑑札料ヲ徴スルヲ要セスト言フモ本官ハ既ニ鑑札ヲ下付スル以上ハ問題說ノ如クナルヲ可トス全國内ノ酢造營業者ノ數ハ僅ニ千百有餘人ニシテ島根鳥取二縣ニ七百人他ノ府縣ニ四百餘人ニ過キサレトモ鑑札ヲ下付スルナラハ其費用ヲ要ス可キヲ以テ鑑札料金二十錢ヲ納メシムルモ何ノ不可ナル之レ有ラン

○三番 箕作麟祥

現問題ノ發議者ハ鑑札料ヲ徴ス可シト云ヒ賛成者ハ鑑札ヲ下付スル以上ハ但書ニ明掲シテ其費用ヲ徴ス可シト云フ者ノ如シ蓋シ其鑑札ヲ下付スルノ分明ナルハ酒造稅則中某某ノ條項ヲ除クノ外總テ之ニ準據セシムル者ニシテ其第一條ニ凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免

許鑑札ヲ受クヘシト言ヒ第二十九條ニ「免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ云云ト言ヘルヲ以テ酢造營業者ニモ鑑札ヲ下付スルヤ分明ナルヲ知ル可シ故ニ若シ鑑札ヲ受ケサルトキハ第二十九條ニ照シ處分セラル可キ者トス鑑札ヲ下付セサレハ提警ニ便ナラサル可キモ鑑札料ヲ課收セサレハトテ提警ニ障礙スルコト無ラン要スルニ鑑札料ヲ徴スルト徴セサルトハ提警ニ影響ヲ致ササルヲ以テ是レ無益ノ修正ト謂フ可シ酒造營業者ノ如キ三十圓ノ免許稅ヲ納メシムルモ鑑札料ヲ納メシメサルニ非スヤ酢造營業者モ亦之ト同シキノミ故ニ問題說ニ同意スル能ハサルナリ

○十五番 柴原和

三番ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項

○ヲ除クノ外ハ總テ此稅則ニ準據セシムルナレハ其第一條ニ準據シテ免許鑑札ヲ受クルハ勿論ナリト言ヒ自家用料云云ノコトニ關シテハ準據セシムルヲ得スト言ヒ而シテ只今ハ免許鑑札ノコトニ關シ準據セシムルト言フ本官其理由ヲ解スル能ハス内閣委員ノ答辨ニ依レハ鑑札ヲ下付スト言ヘリ然ラハ三番ハ自家用料云云ノコトハ準據セシム可ラスト言フモ酢造營業者カ酢造場ニ於テ酒母ヲ造ル無クハ必ス鑑札ヲ下付スルコトヲ明示シ以テ他ノ鑑札ト同ク其料金二十錢ヲ納メシムルヲ要ス又其第三十條ニ免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシト言ヘル如キ如何シテ準據セシムルヲ得ルカ若シ原案ニ從ヘハ鑑札ヲ付與セサル者ノ如シ深ク

望ム但書ヲ加ル問題說ニ決定センコトヲ

○三十二番 三浦安

過刻モ辨セシ如ク本官ハ問題說ニ同意セス十五番

ハ縷縷之ヲ護スレトモ酒造稅則中某某條項ヲ除キ其他ハ之ニ準據ス可キコトヲ明言スル以上ハ其第一條ノ如キ固ヨリ準據ス可キ者タルハ明白ナリ又第三十條ニ關シ十五番ノ云云スル有レトモ其場合ニ在テハ酢造營業者ノ處罰セラルルハ當然ナリ抑モ本案ハ假ニ酢造營業者ヲ酒造營業者ト做スト看ルモ造石額ノ寡少ナル爲メニ此特法即チ本案ノ施設ヲ要スルニ在リ因テ某某條項ヲ除クト言ヘル其他ノ條項ハ悉皆酒造稅則ニ準據セシムルナレハ鑑札ヲ付與スルヤ疑ヲ容レス且縱令鑑札料ヲ課セサレハトテ提警ノ周到セサルノ理ハ之レ無キナリ原案既ニ斯ク穩當ナレハ強テ修正ヲ加フルノ

要ヲ見サルナリ

○十五番

柴原和

本官辨説ノ足ラサル爲メニ三十二番ノ駁議ヲ來セシ

モ只是レ三番ノ論旨ニ對シテ辨白セシノミ酒造稅則第一條ノ如キ酒造場每一所ニ免許鑑札ヲ受ケシムルモ酢造營業者ヲシテ之ニ準據セシムルコトヲ得サラシ三十二番ハ酢造營業者ヲ酒造營業者ト看做スト言フモ是レ三十二番ノ一家説ノミ之ヲ要スルニ第一條ノ鑑札ノ如キ及ヒ附則ノ自家飲料ノ如キ酢造營業者ヲシテ之ニ準據セシムルコトヲ得ルナリ且若シ鑑札料ヲ要セスト爲サハ唯其鑑札下付ノコトヲ明掲スルヲ可トス

○三十二番

三浦安

十五番ハ酒造營業者ハ酒造場每一所ニ免許鑑札ヲ

受ルモ酢造營業者ハ之ニ準據スルヲ得サラシト言ヘリ本官ハ酢造

營業者ノ住屋ヲ酢造場一所ト看テ可ナラント思惟ス何トナレハ酒造營業者ノ如キ自家ニ於テ之ヲ造ルモ現ニ酒造場一所ト看做スニ非スヤ然レハ則チ酢造營業者ト雖モ第一條ニ準據スルヲ得ルヤ明白タリ

○議長 十一番ノ修正ノ決ヲ取ン即チ「準據スヘシ」ノ下ニ「但免許鑑札ヲ受ルトキ云云」ノ二十二字ヲ加ルヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者九人

○議長 少數ナルヲ以テ十一番ノ修正説ハ消滅ス

書記官 森山茂 朗讀

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ検査未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金

ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徵ス

○二番細川潤次郎 輕微ナル一修正ヲ提出セン本官初メ本項ヲ一讀セルヤ「第一項ニ從ヒト言ヘル」第一項ノ字ハ何ヲ指セルヤヲ疑ヒ前項ニ酒造稅則中某某條項ノ文字アレハ或ハ其條號ノ誤テ漏脱セシニ非サルカト思惟シタレトモ再考シテ煩重ヲ避ル爲メニ此ノ如ク立草セシコトヲ知り得タリ然レトモ如何セン本案ニ從ヘハ到底人人ノ疑惑ヲ來スヲ免レス因テ一層明瞭ナラシムル爲メニ第一項ニ從ヒ「ノ六字ヲ酢元ニ供スル」ノ六字ニ改メント欲ス此ノ如クスルトキハ或ハ重複ニ涉ルニ似タレトモ是レ要點ヲ提撮シタルナリ此ノ修正ニシテ幸ニ成立セハ次項モ同ク修正セントス

○七番鍋島直彬 賛成

○二十番大島圭介 賛成ス本官モ「第一項ニ從ヒ」ノ文字ヲ解セサリシヲ以テ某議官ニ質問シタルコト有リシニ幸ニ二番ノ修正說ニ決センコトヲ望ム

○議長 二番ニ問フ「第一項ニ從ヒ」ノ六字ヲ酢元ニ供スル爲メノ八字ニ改ルカ

○二番細川潤次郎 酢元ニ供スル酒類ヲ製造スル者云云ト爲スナリ

○議長 二番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三番箕作麟祥 本官モ二番ト同感ナレトモ聊カ異見アリ「第一項ニ從ヒト言フハ」酢造營業者酢元ニ供スル爲メノ十三字ニ換タル者ナラン然ルニ此第二項ヲ二番ノ修正案ノ如ク「酢元ニ供スル酒類ヲ

製造スル者云云」ト爲ストキハ營業者ニ非サル人ヲモ包括スル如キノ嫌ヒ有リ故ニ本官ハ之ニ同意セス然レトモ到底原案ハ穩安ナラサルヲ以テ二番ノ修正說消滅セハ「第一項」ノ三字ヲ前項ノ二字ニ改ル修正ヲ提出セントス此ノ如クセハ酒造稅則某條第一項ナルヤト解スル如キ煩累ヲ絶ツ可キナリ

○番二番小池外二番靖一 二番ヨリ修正說ヲ提出シタルモ是レ一疑ヲ除キテ他ノ一疑ヲ來スヲ免レス其理由ハ三番ノ云ヘル如ク「酢元ニ供スル酒類云云」ト爲セハ營業者ニ非サル者ニ及フノ疑ヒ有リ三番ノ豫陳セル修正文ナレハ妨ケ無キモ現問題タル二番ノ修正說ハ誤會ヲ來スノ恐レ有ルヲ以テ切ニ其成立セサランコトヲ望ム

○二番細川潤次郎 人ノ思想ハ實ニ測知スルヲ得ス前項ノ要ヲ摘ムニ仍

ホ疑惑ヲ來スト言ヘハ何事ヲモ解スルヲ得サラン實ニ驚ク可キナリ本官復タ多辨セサル可シ

○三十二番三浦安 「第一項」ナル文字ノ解シ難キハ實ニ二番ノ言ノ如シ然レトモ本官ハ三番ノ豫陳說ヲ是認スルニ因リ現問題タル二番ノ修正說ニハ同意ヲ表セサルナリ

○七番鍋島直彬 本官ハ二番ノ修正說ヲ賛成シ今ニ至ルモ疑フ可キ無シト信ス未タ問題ト爲ラサレトモ三番ニ對シ質問セン三番ハ本項ノ「第一項」ノ文字ヲ前項ノ文字ニ改メント言フ然ラハ第三項ノ「第一項」ノ文字ハ何等ノ文字ニ改メントスル乎

○三番箕作麟祥 七番ニ答フ何レノ法律文ヲ問ハス第二項ニ在テ第一項ヲ指ストキハ第一項ト言ハスシテ前項ト言フモ第三項ニ在テハ前

前項ト言フ例ヲ見ス故ニ第三項ハ原案ニ仍ランノミ

○四十番渡邊 洪基 現問題ハ妥當ナラス原案ヲ可トス何トナレハ第一項

ニ從ヒト言ヘハトテ酒造稅則ノ某條ノ第一項ナランカト疑フ無ル
可ケレハナリ若シ某條第一項ト言ハンニハ或ハ疑ヒ無キニ非ル可

キモ單ニ第一項ト言ヘハ前項ナルハ明晰ナリ況ヤ酒造稅則ハ項ヲ
以テ成立セス條ヲ以テ成立セルヲヤ故ニ本官ハ原案ヲ可ト信スル

ナリ

○二番細川 潤 次郎 本官ハ問題ニ對シ發言セサル意見ナリシモ聊カ陳辨

スル有ラン「第一項」ナル文字ニ關シテハ本官モ一タヒハ三番ノ豫
陳セル如ク「前項」ト爲サント考ヘタリシモ第三項ニ至テ前前項ト

言ハサル可ラサルヲ奈何セン且ヤ前項ト爲シ若クハ原案ニ仍リ第

一項ト言フトキハ第一項ノ全文ヲ包含スルニ嫌ヒ有リ蓋シ原案

ノ「第一項ニ從ヒ」ト言ヘルハ「造酢營業者酢元ニ供スル爲メ」ノ十三

字ヲ指スニ在リテ「酒類ヲ製造スル者云々準據スヘシ」ノ四十餘字

ヲ包含セス既ニ第一項ノ全文ヲ指セルニ非サルニ之ヲ「第一項ニ

從ヒ」ト爲スハ妥當ナラス又之ヲ前項ニ從ヒト改ルモ同ク妥當ナ

ラス因テ「造酢營業者酢元ニ供スル爲メ」ノ十三字ヲ摘撮シテ「酢元

ニ供スル」ト爲シタルナリ

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ン二番ノ修正ヲ可トスル者ハ起

立セヨ

起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ二番ノ修正說ハ消滅ス

○三番^{箕作 麟祥}「第一項ニ從ヒ」ト言フモ酒造稅則ノ第一項ニ從フニ非サルハ明白ナリ然レトモ第一項ニ「酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外」ト言ヘルニ因リ或ハ混雜ヲ致スノ恐レ有ルヲ望慮ス故ニ一層明白ナラシムル爲メニ前項ト修正セン刑法治罪法ノ如キ概ネ前項ヲ指ストキニハ前項ト言ヒ而シテ其後ノ項ニ至レハ第幾項ト指スヲ例ト爲セリ二番ハ「酒類ヲ製造スル者ハ云云準據スヘシ」ノ四十有餘字ハ「第一項ニ從ヒ」ト言ヘル第一項ノ文字中ニ包含セスト言ヘリ是レ實ニ其言ノ如シ然レトモ二番ノ修正說ノ如クセハ營業者ヲ包含セサル如キ觀ヲ爲サントス因テ「第一項ニ從ヒ」ト言ヘルヲ前項ニ從ヒ」ト改ルノ明白穩妥ナルニ如カス但タ第三項ノ「第一項」ナル文字ハ敢テ修正セサルナリ

○三十三番^{三浦 安} 賛成ス其理由ハ贅述セサレトモ本官ハ第一項ノ全文即チ「酢造營業者云云準據スヘシ」マテヲ包含セル者ト信ス何トナレハ免許鑑札ヲ受ケ及ヒ其他ノ順叙ヲ踐タル後ニ此順叙ニ及フ可キヲ以テナリ故ニ前項ト爲シテ毫モ支障スルヲ見ス

○十九番^{上杉 茂憲} 本官モ「第一項」ナル文字ヲ穩當ナラスト思惟ス二番ヨリ「酢元ニ供スル」ト云ヘル修正說ヲ提出セシモ消滅シ只今三番ヨリ「前項」ト爲ス修正ヲ提出セリ此修正タル最モ穩當ナリト信スルナリ

○議長 三番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○十五番^{柴原 和} 本官ハ現問題ヲ不是ナリト云フニ非ラサレトモ寧ロ原案ヲ可トス況ヤ過刻消滅セシ二番ノ修正說ニ比スレハ一層ニ劣レルヲ覺フルヲヤ前キニ本官ハ各項ノ上ニ第一項第二項等ノ文字

ヲ冠セシムル修正ヲ提出セント欲シタレトモ其必要ナラサルヲ知
了セリ然ルニ三番ハ本項ノ「第一項」ナル文字ヲ「前項」ト修正シテ第
三項ノ「第一項」ナル文字ハ原案ニ仍ルト言フ是レ却テ疑惑ヲ生セ
シメントス如カス原案ニ從ハンニハ

退席

二番

細川潤次郎

○三十九番 津田 眞道 本官ハ原案ヲ明備ナリト爲シ毫モ疑惑ヲ挾マズ然
ルニ各議官ニシテ之レニ疑惑ヲ生スト云フハ怪ム可シ二番ハ嘆息
シテ人ノ思想ハ實ニ測知ス可ラスト言ヒシモ本官ハ何ノ故ニ斯ノ
如キ思想ヲ生セシヤヲ怪ムナリ若シ原案ノ如クシテ解ス可ラスト
爲サハ「酴造營業者ニシテ酒類ヲ製造スル者云云」ト爲サハ解ス可
キノミ故ニ若シ斯ノ如キ修正ヲ提出スル有ラハ本官之ヲ賛成セン

トス然レトモ本官ノ如キ智慧乏少ナル者ニハ却テ原案ヲ解スルニ
易シトスルナリ

○議長 發議盡タルヲ以テ決ヲ取ン三番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立
セヨ

起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ三番ノ修正説ハ消滅ス

○十一番 榎村 正直 本官ハ「製造スルヲ許サス」ノ下ノ「犯ス者ハ」ヲ「犯シタ

ル者ハ」ト修正セント欲ス是レ酒造稅則等ノ文例ト同一ナラシメン
コトヲ欲シテナリ

○八番 伊丹 重賢 賛成ス刑法及ヒ酒造稅則等ニモ「犯シタル者ハ」ト言ヘ

リ原案ニ仍レハ解シ難キト云フニ非サレトモ十一番ノ修正ノ如ク

スルヲ可ナリトス

○議長 十一番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三番箕作麟祥 十一番ノ修正ニ關シ聊カ質問セン第三項ニ「管轄廳」ト

言フモ酒造稅則暨鹽營業稅則等ニハ管轄廳ト言ヘリ十一番ハ文例ヲ一定ナラシムル爲メニ第三項ニ至ラハ管轄廳ヲ管轄廳ト修正スルノ意ナルヤ如何ン

○十一番榎村正直 本官ノ修正ハ唯其「犯ス者ハ」ト爲スヨリハ「犯シタル

者ハ」ト爲スヲ妥當ナリト信スルニ在ルノミ第三項ノ管轄廳ナル文字ヲ管轄廳ト修正スル如キハ未タ想考ノ之ニ及フ有ラサルナリ

○四十番渡邊洪基 現問題ハ瑣細ナルコトニシテ敢テ論議ヲ費スヲ要セ

サレトモ本官ハ原案ヲ可トス酒造稅則ノ如キハ條數繁多ナルヲ以

テ遠距ノ條項ニ記載セル事項ヲ引クカ故ニ犯シタルト言ヘルノミ他ニ異義ノ存セルニ非サル可シ本案ノ如キハ引首ノ例ニ依ラサル律文ニシテ罰則モ紀律モ共ニ一項中ニ記載セルナレハ故サラニ緩慢ナル文字ヲ填用スルヲ要セス若シ酒造稅則等ト文例ヲ同一ナラシメントセハ管轄廳モ管轄廳ニ改メサル可ラス本官ハ文例ノ異同如何ニ拘ラス原案ヲ是認ス

○十五番柴原和 本官ハ原案ニ決スルモ敢テ不可ナル無シト認ムレト

モ十一番ノ修正ノ既ニ問題ト爲リタル以上ハ其修正ノ行レンコトヲ望ム犯シタル者ハノ文字ハ皆ニ酒造稅則暨鹽營業稅則ニ之レ有ルノミナラス刑法ニモ之レ有ルヲ以テナリ四十番ノ如ク條項ノ遠近ヲ以テ論ス可キニ非ストス

○議長 十一番ノ修正ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ十一番ノ修正説ハ消滅ス

○議長 他ニ發議ナクンハ本案ノ決ヲ取ン本案ヲ可トスル者ハ起立

セヨ

起立者十人

○議長 少數ナルニ因リ第二項ハ否決ス

○十一番 榎村正直 本官ハ第三項ノ前ニ第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者

免許鑑札ヲ他人ニ貸與ヘタル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓

以下ノ罰金ニ處スノ一項ヲ加ヘント欲ス其理由ハ酒造稅則第三十

條ニ免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ

貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシト言ヒ
而シテ其第二十九條ノ處分トハ酒類及ヒ製造諸器械ヲ沒收スル是
レナリ第三十條ニ免許稅相當ノ金額ヲ科スルコトヲ言フモ酢造營
業者ハ免許稅ヲ課スル無キヲ以テ唯其鑑札ヲ收奪スルノミニ止マ
レハ以テ之カ罰ト爲スニ足ラス煙草營業鑑札賣藥營業鑑札等ノ如
キ其貸與者ヲ罰スルニ比スレハ大ニ權衡ヲ失ス因テ煙草營業鑑札
ノ貸與者ヲ罰スル例ニ倣ヒ前陳ノ一項ヲ加ヘントス幸ニ贊成者ヲ
得テ問題ト爲ンコトヲ望ム

退席

三十五番 本田 親雄

○十五番 柴原和

贊成ス酒造稅則第三十條ニハ免許鑑札ノ借受者ト貸

與者トノ罰例ヲ設ケ貸與者ハ鑑札ヲ收奪シテ免許稅相當ノ金額即

チ三十圓ヲ責科スル明文ヲ掲クレトモ酢造營業者ニハ免許稅ヲ課セサルニ因リ第三十條ニ準據シテ處分スルヲ得ス故ニ十一番ノ云フ如ク貸與者ハ鑑札ヲ收奪シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スルヲ妥當ナリトス斯ノ如クセハ權衡其宜キヲ得ン請フ此修正說ニ決センコトヲ併セテ告ク第二項ノ否決セシハ已ムヲ得サルニ出ツ第三讀會ニ至ラハ之カ恢復ヲ圖ラン

○三十二番 三浦安 本官ハ意思未タ免許鑑札貸與者ヲ處分スル點ニ達セサリシカ只今十一番ノ說ヲ聞キ大ニ感觸ヲ同ウセルヲ以テ之ヲ賛成ス此修正タル實ニ原案ノ缺點ヲ補フ者ト謂フ可シ何トナレハ若シ原案ニ從ヘハ免許鑑札ノ貸與者ヲ罰スル能ハサレハナリ請フ此修正說ノ成立センコトヲ

○十九番 上杉茂憲 十一番ノ修正ヲ賛成ス其理由ハ贅陳セス

○議長 十一番ノ修正ハ第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ他人ニ貸與ヘタル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スト言フニ在ル乎

○十一番 榎村正直 然リ

○議長 十一番ノ修正ハ多數ノ賛成者ヲ得タルヲ以テ問題ト爲ス然ルニ時已ニ午ヲ過キタリ午餐ノ爲メニ一時散會シ午後更ニ開會セシ各位散會セヨ

午後零時四十分閉場

午後第一時二十分開場

議長 東久世
通禧

退席

十二番

津田 出

同

三十番

伊集院兼寛

○議長 午前ノ續會ヲ開ク十一番ノ修正說方サニ問題ニ在リ

○四十番 渡邊
洪基 現問題ハ鑑札貸與者ノ處分法ニシテ賛成者タル三十

二番ノ如キハ原案ノ缺點ヲ補フ者ナリト賛稱セシモ本官ノ意見ハ之ニ異ナリ酒造稅則ノ如キハ免許稅ヲ課スルニ因リ鑑札貸與者ノ處分法ヲ設ルナレトモ酢造營業者ノ如キハ免許料ヲモ課セスシテ鑑札ヲ付與スルナレハ借受者ハ實際必無ナラン若シ無鑑札ニシテ酢造營業ヲ爲ス有ラハ酒造稅則第二十九條ニ照シ處罰センノミ何ニ由テ無料ニシテ付與セル鑑札ノ借受者ヲ見ル有ランヤ此ノ如キ

無効無益ノ事項ヲ掲記スルハ實ニ杞人ノ憂ト謂ンカ抑モ本案ハ一時ノ弊ヲ防クニ止メテ可ナリ徒ラニ無要ナル事項ヲ插入スルヲ要セス是レ本官ノ現問題ヲ非認スル理由ナリ

○三番 箕作
麟祥 本官モ新タニ一項ヲ設クル必要ヲ見サルナリ然レトモ

其理由ハ四十番ト異ナリ發議者及ヒ賛成者ハ貸與者ト借受者ト處罰ノ權衡ヲ得スト云フモ本官ハ現問題ノ如クセハ却テ權衡ヲ失スト信ス酒造稅則ニ據レハ借受者ハ貸與者ヨリモ其罰重キニ現問題ノ如クセハ貸與者ヲ制裁スルニハ可ナレトモ借受者ハ却テ輕キニ失セン何トナレハ借受者ハ僅ニ酢ト製造器械トヲ沒收セラルルニ止ルモ貸與者ハ二圓以上二十圓以下ノ重罰ヲ科セラルレハナリ斯ノ如キ不權衡ヲ生スルヲ以テ本官ハ之ニ同意スル能ハス

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ十一番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ十一番ノ修正説ハ消滅ス

書記官 森山茂 朗讀

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ此ニ第二讀會ヲ畢ル

○番一 山尾 第三讀會ヲ連開センコトヲ請求ス

○議長 番外一番ノ請求ニ應シ第三讀會ヲ連開スルニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ第三讀會ヲ連開ス第二讀會ノ例ニ倣ヒ一項毎トニ議題ニ付セン

書記官 森山茂 朗讀

布告案

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十人

○議長 多數ナルニ因リ本案ニ決ス

○三十二番 三浦安 原案第二項ハ第二讀會ニ消滅シタレトモ是レ不是

ナル理由ノ存スルヨリシテ然ルニ非ス因テ原案第二項ト同一ナル

文字ヲ提出ス

○四十番 渡邊洪基 賛成

○三十六番 神田孝平 賛成

○七番 鍋島直彬 賛成

○二十番 大鳥圭介 賛成

○三番 箕作麟祥 賛成

○議長 三十二番ノ第二讀會ニ消滅シタル原案第二項ヲ復スル修正

ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○番二番 小池靖一 三十二番ノ說ノ如ク原案第二項ヲ復センコトヲ望ム

○十五番 柴原和 現問題ヲ賛成ス原來第二項ハ第二讀會ニ削除說ノ出

テタル有ラス只唯「第一項ニ從ヒ」ヲ「酢元ニ供スルト爲シ又前項ニ

從ヒト爲サントスル修正說及ヒ「犯ス」ヲ「犯シタルト改メントスル

修正說ノ出タルモ皆同意起立ノ少數ナル爲メニ消滅ニ歸シ遂ニ本

案ヲ併セテ偶然ニ消滅ニ歸セシメタルノミ本官ハ過刻第三讀會ニ

至ラハ提出セント豫陳シタルニ三十二番之ヲ提出シタルヲ以テ輒

チ之ヲ賛成ス

○十九番 上杉茂憲 三十二番ノ原案第二項ヲ復スル修正ヲ賛成ス本官ハ

第二讀會ニ於テ「第一項」ナル文字ヲ「前項」ト改ル三番ノ修正ヲ賛成

セシカ少數ヲ以テ消滅セシモ爲メニ原案ヲ消滅ニ歸セシメタルハ遺憾ナリ假令原案ノ如クナルモ別ニ明備ナラサルニ非ス故ニ本會ニ於テハ原案第二項ヲ復スル修正ヲ賛成ス

○議長 原案第二項ヲ復スル三十二番ノ修正ノ決ヲ取シ之ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ原案第二項ヲ復スルニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

○第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ第三項ヲ可ト決シ此ニ第三讀會ヲ畢ル第三讀會ニ於テ原案恢復ノ修正ヲ加ヘタルニ因リ一應第三讀會ヲ以テ確定決議會ト看做ス可キヤ否ヤノ決ヲ取シ即チ確定決議會ト看做スニ同意スル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ確定決議會ト看做スニ決ス可決ノ旨ヲ具シ例ニ遵ヒ上奏セン散會セヨ

午後第一時四十分閉場